

新年号

**2023.1
No. 159**

**第64回建築士会全国大会あきた大会特集
あきた建築士会ニュース**



第64回建築士会全国大会あきた大会式典 オープニングセレモニー なまはげ太鼓

一般社団法人 秋田県建築士会

目次

新年を迎えて	年頭のご挨拶……………	一般社団法人 秋田県建築士会会長 淡路孝次…	1
	年頭のごあいさつ……………	秋田県建設部長 田中倫英…	2
	年頭のごあいさつ……………	秋田県建設部 参事(兼)建築住宅課長 中野賢俊…	3
あきた大会特集	第64回建築士会全国大会「あきた大会」を終えて……………		4
	大会概要……………		5
	主なスケジュール……………		6
	大会式典……………		8
	記念対談……………		9
	大交流会……………		16
	記念展示・企業出展・飲食コーナー……………		17
	地域交流見学会(エクスカーション) A～Hコース……………		17
	秋田セッション……………		23
	寄稿……………		24
会務報告	……………		37
地域会だより	……………		38
誌上年賀	……………		42
新入会員紹介	新入会員からのメッセージ……………		58
事務局だより	……………		59
定期講習会	……………		62
編集後記	……………		63

年頭のご挨拶



一般社団法人 秋田県建築士会会長 淡路孝次

全国大会あきた大会開催される

新年明けましておめでとうございます。

昨年は秋田県建築士会並びに日本建築士会連合会創立70周年という節目の年、秋田県内各地を舞台に第64回建築士会全国大会あきた大会が雲一つない秋晴れの下、開催されました。

47都道府県より参加登録者が2700名を超え、加えて大勢の同伴者や出展ブース、竿灯会、なまはげ太鼓を始め多数の関係者の協力を得ており、さらにエクスカッションにおいては県内各地でそれぞれ地域関係者や会員に協力賜っており、個人的には3000名の参加者・関係者と言える大成功の大会であったと思っております。

大会前日開催されました建築士フォーラム、HM総会、47都道府県会長会議や懇談会、大会当日の各セッション、式典、大交流会、最終日のエクスカッション等、全ての行事が大きな問題もなく実施され、その出来栄に多くの参加者から賛辞を頂戴したことは、開催にあたり協力いただきました会員全てのお陰であり、成果であります。

またその成果は、会員の思いを受け止めその思いが遺漏なく形にできるよう寝食を忘れ尽力いただいた事務局秋田県建築住宅センターの理事長はじめ職員の皆様の働きによるところであり心から感謝を申し述べさせていただきます。

ところで私が「大成功」と言うのは単なる感想ではなく、私に直接あるいは電話やメールにて賛辞を頂戴したからであります。その一端を紹介しますと、近角会長は「やり抜いた感」、三井所名誉会長からは「閉会の挨拶の時涙が止まりませんでした」等々で、その他全国の大勢の仲間から同じように賛辞を頂戴しました。秋田会の会長にでするので世辞があっ

たかかもしれませんが、それだけではなかったと自信をもって言えます。

さらに全国の皆様からの賛辞以上に嬉しかったことがあります。それは大勢の県内会員から、「参加してよかった」「参加して楽しかった」等の感想をいただいたこと、それも若い会員から頂戴したとの報告をいただいたことであり、そのことが何よりうれしかったことであります。

これまで私は、「全国大会が成功か否かは、全国大会を契機に地域会それぞれが今まで以上に地域住民及び地域行政と連携が図られることによって判断したい」と述べてきました。それ故、大会後の連携に期待し、県を始め県内25市町村長に全国大会へのご招待状を差し上げました。その結果、県内数十の行政機関や関係団体等から、市町村長さん始め多くのご来賓の皆様にご臨席を賜り、且つその皆様より多数の賛辞を頂戴できましたことは、今後地域行政と建築士会が連携する際の一助になり得るものであり、全国大会開催意義に繋がることと思っております。

話は変わりますが、私が秋田県建築士会会長となって三期6年となります。

この間、「建築士の社会的地位向上」を目指し、日々の活動を通して地域と信頼関係の構築が重要と思って活動してまいりました。そして70周年という節目を超えることができましたことは、地域貢献を標榜する当会の存在意義が諸先輩のお蔭で社会に認知いただけたからと感謝いたしております。

結びになりましたが、この度の大会開催にあたりご尽力賜りました株式会社JTB秋田支店様、株式会社サキガケアドバ様はじめ関係各位には紙面をお借りし厚く御礼申し上げます。

年頭のごあいさつ



秋田県建設部長 田中倫英

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年中は、本県建設行政の推進に格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。また、41年ぶりに本県で開催された建築士会全国大会が盛大裡に終えられましたことを、心よりお喜び申し上げます。

一般の新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、大都市圏への集中の是正や生産拠点の国内回帰の必要性が再認識される中、今後は地方がその受け皿となるため、道路ネットワークの整備や港湾機能の強化はもとより、激甚化・頻発化する自然災害に対応する県土の強靱化等、県内経済を支え、地域の安全・安心に繋がるインフラの整備が一層重要になるものと考えております。

こうした中、本県においては、秋田自動車道「北上西IC～横手IC間」における4車線化事業や、秋田港と秋田北ICを結ぶ「秋田港アクセス道路」等、広域道路ネットワークの形成に向けた整備が着実に進められております。

また、県土の強靱化については、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」に基づき、大規模地震に備えた構造物の耐震化やインフラの老朽化対策を加速化していくとともに、ハード・ソフト一体となった流域治水対策の取組を進めております。

さらに、洋上風力発電に関しては、基地港湾に指定されている秋田・能代両港において岸壁整備等の港湾機能の強化が進められるとともに、港湾区域内における発電施設の工事が完了するなど、本県への大きな経済波及効果が期待されております。

建築・まちづくりの分野においては、県と秋田市の連携文化施設である「あきた芸術劇場ミルハス」が昨年9月にグランドオープンして以来、多くのコ

ンサートや各種イベントが開催され、新たな賑わいが創出されました。引き続き、市街地再開発事業による中心市街地の活性化や優良建築物等整備事業による街なか居住に取り組み、持続可能で活力にあふれたコンパクトなまちづくりを推進してまいります。

また、平成22年度から開始した「住宅リフォーム推進事業」については、令和3年度までに約9万戸、約120億円あまりの補助を実施してまいりました。社会情勢や価値観の変化に伴い、住宅に求められる性能も大きく変わりつつありますが、本年も引き続き、省エネ化や在宅勤務の環境整備等について支援してまいります。

県有建築物の営繕工事設計業務委託においては、令和2年度から導入されている「入札時積算数量活用方式」により、これまで以上の高い精度の成果品が求められていることから、設計業務委託の成績評定を令和3年度から試行し、設計者の意識向上や設計成果品の品質向上に取り組んでおります。引き続き、発注条件として求められる品質を確保する上で必要とする設計業務が適切に実施されるよう、ご理解とご協力のほど、よろしく願いいたします。

今後も、人口減少下においても持続可能な地域づくりを進めるため、経済活動や住民生活の基盤となる社会資本の整備に取り組むとともに、災害対応や雪おろし、除排雪作業など、地域を支える建設関連産業の担い手確保や労働環境の改善、生産性の向上に向けた取組を推進し、県民が安全・安心に暮らすことができる地域社会の形成に向けて努めてまいります。

結びに、本年が皆様にとって希望に満ちた飛躍の年となりますようご祈念申し上げ、新年のあいさつとさせていただきます。



年頭のごあいさつ

秋田県建設部 参事(兼)建築住宅課長 中野賢俊

会員の皆様におかれましては、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、日頃から県の建築・住宅行政にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年(令和4年)、建築士会の皆様にとりまして最大のトピックスは、新装オープンとなった「あきた芸術劇場ミルハス」を主会場に開催された、「第64回 建築士会全国大会 あきた大会」ではなかったかと思えます。

コロナ禍の影響もあって3年振りの開催となったこの大会、式典には私も参加させていただきましたが、延べ3,000名を超える建築士が、どれほど心待ちにして、秋田にお越しただけたことかと、会場の熱気からも感じとれました。

執筆現在、国内における新型コロナウイルス感染症は、第8波に突入したとも言われており、加えて、インフルエンザと新型コロナウイルスに同時感染する状態の事を指す「フルコロナ感染」なる新語も、聞く事が多くなりましたが、この度のような大規模な大会が、コロナ感染の波と波を縫うかのように開催できたことは、時節を味方に付けただけでなく、開催の実現に向けて奔走された皆様の、熱意の賜物と存じます。

大会旗は、淡路会長から次回開催地である静岡県の建築士会長へと、しっかり引き継がれました。大役を果たされました会長をはじめ、実行委員会の皆様の安堵は、いかばかりかとお察し申し上げるとともに、在職中にこのような機会に巡り合わせていただけたご縁にも、心から感謝しております。ありがとうございました。

さてここで少々、建築基準の話題に触れます。

2022年6月17日に「4号特例縮小法案」が公布されたことはご存知でしょうか。2025年中の施行

を目指すとされており、予定通りであれば、1983年に開始され、例の「姉齒事件」を経てもなお存続した、この「4号特例」は40数余年の時を経て大きな転機期を迎えることになります。

ざっくり言えば、延床面積が200㎡を超える建物は壁量計算(300㎡超は、構造計算)の審査が必須になり、これまで同様の特例審査の対象は、木造・非木造を問わず、延床面積が200㎡以下の平屋建て建築物に限られます。

そのため、戸建住宅の大半を占める木造2階建て住宅は、特例審査の対象から外れることになり、ハウスメーカーや工務店、設計事務所の業務内容が一気に増大するのではないかと懸念から、「縮小ではなく、廃止も同然」という意見もあるようです。

ここに至る経緯等は、誌面の制約から省略しますが、いずれにしても、この法改正は、従来制度を利用した悪質な違反を排除し、住宅の安全性を高めるために決定された施策であることを踏まえ、正しい知識と法令遵守の精神で、依頼主の要請に誠実に対応することが求められているものと存じます。カーボンニュートラル社会の実現に向けた、住宅等の省エネ性能向上への取り組みと合わせ、建築士に対する期待は益々高まっているものと思えます。

閑話休題、今冬の気温は全国的に平年より低く、厳しい寒さになり、北日本(日本海側)の雪は平年並か多くなるとの予報があります。災害は、いつどこで発生するとも限らないことを心に留めつつ、自然の猛威に対する心構えと備えの大切さも忘れずに暮らしたいものです。

結びになりますが、本年が皆様にとって希望に満ちた飛躍の年となりますよう、そして大きな災害が発生しないことを、心からご祈念申し上げます。新年のあいさつとさせていただきます。

第 64 回建築士会全国大会

「あきた大会」を終えて

第 64 回建築士会全国大会あきた大会実行委員長 淡路 孝次

令和 4 年 10 月 14 日第 64 回建築士会全国大会「あきた大会」が開催されました。

当日はご多用のところ国土交通大臣、林野庁長官、秋田県知事、秋田市長をはじめ県内市町村長ほか多数のご来賓の皆様のご臨席を賜り、厚く御礼申し上げます。そしてなによりコロナ禍の中、全国から 2,700 名を超える建築士会の会員の皆様はるばる秋田までお越し下さったことに心より感謝申し上げます。また当日に至るまでそれぞれの持ち場で創意工夫を重ね、奮闘して下さいました秋田県の会員の皆様、そしてお力添え頂いた全ての関係者の方々にも御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

さて、当日は会員一同の熱い思いが通じたのか、秋晴れに恵まれ、見事な紅葉が映える千秋公園前の会場へ途切れることのない人とバスの波が続く光景を目にし、ついにこの日が迎えられたと感無量の思いが致しました。

秋田名物を余すところなくお楽しみ頂きたく、大迫力のなまはげや竿燈など秋田の伝統芸能や、100 銘柄を超える秋田の美酒と自慢の新米を用意し、秋田美人と名高い小野小町に由来する市女笠姿のこまち娘や、日本三大盆踊りとして有名な西馬音内盆踊りの美しく妖艶な踊り手がお出迎えしました。

唯一の心残りは秋田セッションで「美しすぎる図書館」として名高い国際教養大学図書館の見学を盛り込みましたが、想定を上回る申し込みがあり、希望者全員をお連れすることが叶わなかったことです。この場をお借りしお詫び申し上げるとともに、是非このご縁を次回の楽しみにまた秋田を訪れて頂ければと願っています。

当県での全国大会の開催は 41 年振りであり、「『建築』で挑戦！郷土のこれから～け、け、けの秋田でまずかだれ～」のテーマのもと平成 30 年春より準備を進めてまいりました。準備開始当初は、新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより未だかつてない状況での長期戦となることは知る由もありませんでした。コロナ禍の影響を受け準備は思うように進まず、直前まで開催できるか危機感もありましたが、得たこともありました。一つは開催時期がずれたことにより期せずして 2022 年にオープンしたばかりのあきた芸術劇場ミルハスを会場に使用することができたこと、二つ目は遠方など時間、場所の制約のため参加が難しかった会員が、ZOOM など IT 技術の活用により容易に打ち合わせに参加できるようになったことです。不安と焦りの中、会員同士鼓舞し合い、時には先輩から 41 年前の前回大会の思い出を聞くなど、濃密な時間を過ごせたことは貴重な体験であり、若い世代へ着実にバトンを渡せたのではないかと考えております。

我が郷土秋田県は高齢化率全国第一位の先進県であり、秋田県建築士会の会員の年代構成も例外ではありません。しかし今大会を通し、県内の年代性別を問わない多様な建築士が結集し一つの目標を達成する中で得たつながりや連帯感は大きな収穫となりました。また、全国から集った多くの仲間と問題意識を共有し、率直に意見を交換し、様々な価値観に触れたことで新たな視点や活力を頂きました。まさしく今大会のテーマである郷土の未来のためにそれぞれの果たすべき役割が明確となり、希望の光が灯る大会となりました。

結びに、次回の第 65 回「しずおか大会」の成功、全国の建築士の皆様の一層のご健勝とご活躍、そして「しずおか大会」での再会を祈念し、御礼のご挨拶とさせていただきます。誠にありがとうございました。

大会概要

- テーマ：『建築』で挑戦！ 郷土のこれから
～け、け、けの秋田で まずかだれ～
- 期 日：令和4年10月14日（金）
- 会 場：あきた芸術劇場ミルハス
〒010-0875 秋田市千秋明德町2-52
- 主 催：公益社団法人 日本建築士会連合会
- 共 催：建築士会東北ブロック会（青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島）
- 主 管：一般社団法人 秋田県建築士会
- 後 援：国土交通省、秋田県、秋田市

去る令和4年10月14日（金）、『建築』で挑戦！ 郷土のこれから」をテーマに第64回建築士会全国大会が秋田県秋田市で開催されました。

あきた芸術劇場ミルハスを主会場とし、大会式典、記念対談、交流セッションをはじめ充実したプログラムが催され、3年振りの現地開催となり2,700人を超える建築士が集い、盛況のうちに幕を閉じたあきた大会の報告をいたします。



あきた芸術劇場ミルハス

平成26年開催の第57回ふくしま大会に参加し、全国ブロッカー巡7年後のあきた大会を意識し始めてから丸8年、コロナ禍にあって幸運にも地元開催が叶い無事に大会を終えることが出来たことに、今安堵と充実を感じています。

平成30年に秋田開催が正式決定して以後、実行委員会を組織し、真っ先にテーマを『建築で挑戦！郷土のこれから』、我々が郷土の未来のためにすべきことの認識を共有し誇りを持って挑戦し続ける決意を発信することに決めました。日時・会場を順次決定し、テーマカラーに元気を示すオレンジを選び、着々と準備を進めて、まさにこれからという時に広島大会の延期が決まり、あきた大会も仕切り直しになりました。期せずして工事中だった芸術劇場ミルハスの利用が叶ったことは幸運でしたが、翌年広島大会が直前で東京開催になったことで、貴重な大会視察機会が失われ、多くの会員がぶっつけ本番で大会に望むこととなったのは大きな誤算でした。

大会への申し込みは嬉しくも2,700名を超えましたが、コロナの収束が見通せない中、大規模なキャンセルなども半ば覚悟しながら迎えた大会でした。

大会の前日、連合会理事・士会長合同会長会議、建築士フォーラムなどが終了したのは午後8時で、翌大会当日は早朝の秋田セッション（国際教養大学図書館見学）から、続々とバスに乗り込む参加者の姿に緊張が一気に高まりました。10会場で行われた交流セッションが終了時刻を迎える頃には、大会受付や昼食会場、地酒もっさりコーナーが大いに賑わい始め、厳選したおもてなし部隊（竿灯、なまはげ、観光レディ、ゆるキャラ、ダリア等）の出迎えに活気と熱気が増すなか、メイン会場で記念対談、大会式典が始まりました。

モンテ・カセム氏と千田満氏による記念対談では、郷土の持続可能社会の実現に建築士として果たすべき役割と挑戦をテーマに対談が行われ、続く大会式典は、迫力の「なまはげ太鼓」で幕を開け、表彰など一連の儀式が厳かに執り行われた後、次期開催県静岡へと大会旗が引継がれて無事に幕を閉じました。

大交流会は、秋田の魅力を堪能して頂くべく、県内の全酒蔵から100銘柄の地酒を取り寄せ、きりたんぼ鍋などの郷土料理と、幽玄優美な西馬音内盆踊り演舞の披露などに、参加下さった皆様には満足して頂けたと思っています。

最終日は、県内8地域会が厳選したエクスカーションコースに向けて続々と出発するバスを見送り、無事の帰秋を祈りながら、薄暮の秋田駅で皆さんの無事的笑顔を確認できた時には、大会行事の全ての終了を実感し、数年間に及ぶ実行委員会での苦労が、安堵と充実感に代わった瞬間でした。

サブテーマ『～け、け、けの秋田でまずかだれ～』、今大会はコロナ渦で困難だった会員の繋がりを取り戻すがごとく、全国の建築士の皆さんの結束に多少なりとも役立てたものと感じています。とりわけ大会準備を通して醸成された秋田県会員の結束と連帯は、大きな収穫であり今後の希望の光になりました。

大会の開催にあたり、連合会、建築士会東北ブロック会、前開催県、関係機関、関係企業など、多くの方々のご協力に支えられて終えることができた事に改めて感謝申し上げます。

主なスケジュール

10月13日(木) 全国大会前日

- 13:30～14:30 記者会見 (キャッスルホテル 3F 弥生の間)
- 15:00～17:00 連合会理事・士会長合同会議 (キャッスルホテル 4F 矢留の間)
- 16:50～18:30 全国建築士フォーラム (秋田市文化創造館 2F スタジオ A)
- 16:30～18:30 全国ヘリテージマネージャー協議会総会 (にぎわい交流館 AU 3F 多目的ホール)

10月14日(金) 全国大会

- 08:45～17:30 総合受付 (ミルハス 1F ロビー)
- 10:00～12:00 青年委員会セッション (秋田市文化創造館 2F スタジオ A)
- 女性委員会セッション (ミルハス B 1F 小ホール B)
- 景観・街中 (空き家) まちづくりセッション (にぎわい交流館 AU 3F 多目的ホール)
- 福祉まちづくりセッション (にぎわい交流館 AU 4F 研修室1、2)
- 防災まちづくりセッション (ミルハス 4F 小ホール A)
- 歴史まちづくりセッション／第9回全国ヘリテージマネージャー大会 (アトリオン 4F 音楽ホール)
- 木の建築賞 (にぎわい交流館 AU 2F 展示ホール)
- 環境部会セッション (にぎわい交流館 AU 4F 研修室1、2)
- 木のまちづくりセッション (キャッスルホテル 4F 放光の間1)
- 情報部会セッション (にぎわい交流館 AU 3F ミュージック工房1)
- 13:00～14:30 記念対談 (ミルハス 大ホール)
- 15:00～17:00 大会式典 (ミルハス 大ホール・中ホール)
- 17:30～19:30 大交流会 (キャッスルホテル 放光の間)
- 08:50～11:50 秋田セッション：国際教養大学図書館の見学
- 10:00～16:00 記念展示 (ミルハス 3F ホワイエ)
- 10:00～16:00 企業出展 (ミルハス 1F 多目的スペース)

10月15日(土) 地域交流見学会(エクスカーション)

- Aコース 世界文化遺産と十和田湖・秋田犬・歴史的建物を巡る (鹿角・大館) ※一泊二日
- Bコース 秋田内陸縦貫鉄道でゆく・紅葉の大自然とマタギの里探訪 (北秋田・角館)
- Cコース 木都能代と研究拠点を巡る (能代)
- Dコース 日本海の水平線と世界文化遺産「なまはげ」巡り (男鹿)
- Eコース 国の登録有形文化財を活用した事例に触れる (由利本荘・にかほ)
- Fコース 「みちのく小京都 角館」～江戸時代の武家町さんぽ～ (大仙・角館)
- Gコース 商家のまちなみと内蔵の探訪 (横手増田)
- Hコース 白井晟一 秋田時代を探る (湯沢)



建築士フォーラム



秋田士会スタッフ始動



受付



大会式典オープニングセレモニー



大会式典



大会式典 場内



大会式典 大会旗返還



大交流会 西馬音内盆踊り披露



昼竿灯



ふれあい竿灯



夜竿灯



もっきりコーナー



秋田のお酒



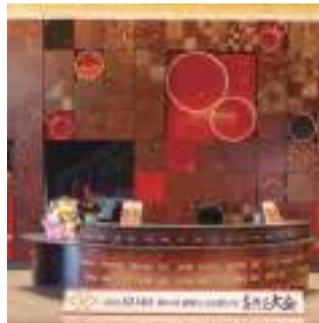
ミルハスホール



ミルハスホール



大会バナー



写真スポット



エキスカーション受付

大会式典

大会式典のオープニングは「なまはげ太鼓」。ユネスコの無形文化遺産にも登録された「男鹿のナマハゲ」と、日本古来の「和太鼓」とを融合させた古くて新しい郷土芸能。神山から降りるが如く「なまはげ」が登場し、練り出される荒々しい演舞と怒涛の和太鼓演奏が、会場を迫力と感動の世界へと誘い、余韻の残る中で式典の幕が上がりました。

秋田県建築士会 田仲雅美副会長が開会宣言し、淡路孝次会長が秋田で語り合いましょうと呼びかけた開催地歓迎挨拶に続き、国歌斉唱とご逝去会員 360 名の追悼がおこなわれ、続いて日本建築士会連合会 近角眞一会長から、三年振りとなる現地開催の喜びをかみしめた主催者代表挨拶がありました。

県内外のご来賓を代表して国土交通省住宅局建築指導課長 宿本尚吾様、秋田県副知事 神部秀行様、秋田市副市長 柿崎武彦様のお三方からと、林野庁長官 織田央様のビデオメッセージで、それぞれが抱える課題に対する建築士の役割への期待と、大会成功祈念のご祝辞を賜り、ご来賓の紹介、参加会員数の報告と祝電が披露され、式典は活動の功績を讃える受賞者表彰へと進みました。

連合会会長表彰は 126 名、代表として秋田県 加藤一成氏が登壇。伝統的技能者表彰は 19 名、代表として宮城県 加藤正男氏が登壇。70 周年記念永年勤続職員表彰は 33 名、代表として山形県 三浦秋夫氏が登壇し、それぞれの分野での活躍に対し表彰が行なわれました。続いて建築作品賞 14 作品のうち、大賞を「風突のケアハウス」東京都 中村拓志氏が受賞し、青年委員会による地域実践活動は、最優秀賞を愛媛県建築士会、優秀賞を北海道建築士会が受賞し、最後に NPO 木の建築フォーラムと共催した木の建築大賞受賞の「道の駅ふたつ」が紹介され、優れた活動・作品への表彰・顕彰は終了しました。

式典の終盤は、淡路会長と古谷誠章連合会副会長の両名から大会宣言が発表されたのち大会旗の引継へ。淡路会長から近角会長、そして次年度開催県の静岡県建築士会 飯尾清三会長へと大会旗は引継がれ、PR 動画で静岡県の幾多の見所に想いが及ぶなか、総勢 40 余名の会員と共に起こった飯尾会長の決意表明に、しずおか大会への参加意欲を掻き立てられる思いでした。

最後に秋田県建築士会 照井郁人副会長が、開催県としての労苦を振り返りながら参加者・関係者の皆様への感謝で閉会挨拶を結び、式典は無事に幕を閉じました。不手際な場面もあったと思いますが、どうか無事に終了できたことに対し、関係者の皆様に感謝と御礼を申し上げます。

(大会式典 責任者 伊藤 和博／秋田中央建築士会)



オープニングセレモニー (なまはげ太鼓)



主催者挨拶 (連合会 近角会長)



開催地会長挨拶



来賓祝辞 秋田県副知事 神部様



来賓祝辞 秋田市副市長 柿崎様



秋田から静岡へ、大会旗引継ぎ



次期開催地アピール (静岡士会)

記念対談

日時……令和4年10月14日(金) 13:00～14:30

会場……あきた芸術劇場ミルハス 大ホール

参加者…1,056名

演題

『秋田杉、そして建築の挑戦』

～「“秋田発”世界標準の大学」を支える「美しすぎる図書館」～

対談者

モンテ・カセム氏

国際教養大学理事長・学長／
元立命館アジア太平洋大学学長

×

仙田 満氏

環境建築家／(株)環境デザイン研究所会長／
東京工業大学名誉教授

聞き手

小原 正明

秋田県建築士会理事・まちづくり委員長

対談サポート

野村 朋広氏

(株)環境デザイン研究所ゼネラルマネージャー



記念対談会場ステージ全景（ミルハス大ホール）



記念対談聴衆席の様子（ミルハス大ホール）

モンテ・カセム先生と仙田満先生による記念対談を開催しました。大会式典会場で約1,150名の皆様にお聴きいただきましたが、全国の建築士会会員の皆様にとっても、大変有意義で示唆に富んだ内容でしたので、その要旨をご紹介します。

はじめに

《小原》大会テーマ「『建築』で挑戦！郷土のこれから」は、持続可能な社会実現のため、人々が歴史や文化に誇りを持つことが重要とされていることから、建築士が率先して郷土を見つめ直し、建築・まちづくりを通じて、これからの郷土の創造に挑戦しようとする決意表明です。対談演題は『秋田杉、そして建築の挑戦』。秋田県には全国に誇れるものが数多あり、秋田杉、AIU国際教養大学に加え、秋田杉を用い、世界標準の大学を支える「中嶋記念図書館」は秋田県のシビックプライドです。そこで、図書館の使い手のカセム先生から大学の特色など、作り手の仙田先生から設計コンセプトや秋田杉による建築実現手法等について語り合っていたらどうなるもの

大学の理念や特色、地域との関わり等

《カセム》 秋田杉、そして建築の挑戦を考えた時、AIUの図書館が語るものが大学を世界水準化したのではないかと感じております。24時間、365日開館の図書館は冊数が多く電子図書もあるハイブリッド図書館です。大学は理性の固まりで、図書館がそれを象徴しております。仙田先生のおかげで若者に感性を融合してくれたと思います。図書館はコロナ禍で学生は行ける時間を制約され、市民に思った通りに開かれず、大変難儀しました。基本教育理念の中で今、応用国際教養教育という第3ステージです。国際教養とは自己を見つめる、他者と共生する、その力が付くことによって、人間力が付いた良い社会を創る担い手になるということで、大学は努力しております。90%近くの学生がキャンパスの中で生活しており、大学は今、日本のトップ大学の片手で数えるぐらいの偏差値になっております。その1つの理由は、入学後、徹底的に宿題をさせることです。それを手助けるものが先生の豊かな空間です。自分の部屋で勉強できますけど、わざわざ真夜中でも図書館に来る。だから、24時間、365日の意味があるんです。世界の仲間と共創するキャンパス、国境無き環境で英語が主流言語です。地域住民との協働も根底にあり、キャンパスにいつでも出入りでき、学生も地域に出向いております。勉強、経験、感じたことの研究成果を世界へ発信する力を持っている大学です。言語を通じた多文化共生の社会づくりが初代の中嶋学長の夢でした。国際教養の基礎のもと、英語を学ぶではなく、英語で学び、表現し、世界中にそれを伝える。応用国際教養教育の意味を考えると、思想はリベラルアーツという人間力を付ける教育の中に広まっていきますが、それに行動の悔やみと喜びを蓄えて、たくましい人間を作ることが大学の第3期の挑戦どころです。応用力と思想の融合です。グローバル・スタディーズという分野があり、自然界の中の生命の位置付け、人間社会がどう歩んで来たか、過去を深く検証し未来のあるべき姿を描くことがこの専門分野の挑戦どころです。AIUの専門分野は学際的専門分野で、建築も立派な学際的な専門分野です。そのもう少し広い学問版です。人類が氷河期の後、約1万2千年前からの安定感を、人間が生き方により崩そうとしております。気候変動です。安定した気候で勝ち組だった人間が自分が成功に至った環境を壊し始めているところは今後の課題です。気候変動が我々の根底にある食糧の危機を招きます。もっと危ない環境に対する損失の一つが生物の多様性の損失です。それがコロナ禍を招いたことは科学者が証明しております。リンとチッソの循環にも赤信号が出ております。これからヒュウマニズムがどうなるかは、賢い機械の発達によって変わってきます。今、賢くお互いとしゃべっている物が地球の80億の人間社会の4倍以上で、このマシンがだんだん賢くなり、ねずみの脳ぐらいと言われております。機械が人間社会を学んで真似るのではなく、自分が打ち出したことで囲碁の挑戦で機械が最近、勝利した。地球環境の変動とデジタル社会の変革を見据えた上で、今後のビジネスの在り方を考えることは大学のビジネス領域の挑戦どころです。エネルギー問題がその根底にあり、幸いに秋田県が再エネの中核拠点になりつつあります。その力を活用し、急に高齢化した社会の未来を保障することは我々の課題です。9つの領域ぐらいの中に、学際的に学生が学んで未来の担い手になればと思っております。健康寿命の延伸は秋田県の課題で、上小阿仁村の高齢化率は58.8%です。少子化高齢化の課題を取り上げ新たな価値を創造することは大学の課題です。大学の応用国際教養教育をAILAと呼んでおり、推進する3つの機構を作っております。1つはアクティブラーニングセンターで大学教育や教授法を小・中・高に持ち運ぶ責任を持つセンター。2番目が滞在型のキャンパス、オンライン・オフラインのハイブリッド型のコミュニティをどう形成するかを検証するセンター。3番目が秋田

に新しい価値を生み出すために課題となる5領域8つのプロジェクトを2022から2024年に生み出そうとしております。新しい国際的なイノベーションハブを作る要素です。数多くの国内外の大学、産業界等々と協働しようと思っております。コロナ禍では大学は大きな打撃を受け、うちの学生を出すことはできたけれど、交換留学生在がストップし、約200のパートナー大学から国の水際対策で交換留学生を受け入れられなくなった。図書館が語るとすれば、22・3万人ぐらいの年間利用者がコロナ禍では10分の1に減った。やはり図書館が物事を語る。仙田先生、本当にあの図書館を作っていただいて、ありがとうございました。

図書館の設計コンセプト、秋田杉による建築実現のための手法等

《小原》仙田先生に「美しすぎる」と称されております図書館の設計コンセプトや秋田杉による建築実現のための手法等について、お話していただければと思います。

《仙田》私は1975年頃から秋田と関わっており、一番最初は1980年に完成した県立の児童会館で、次の年、県営御野場団地を現代計画研究所の藤本さんとJVでやりました。2000年に入り、秋田市のプロポーザル第一号の太平山自然学習センターをお手伝いしました。最近、能代市の市庁舎を新しく免震構造で完成させました。一番新しいのが2020年の秋田ノーザンゲートスクエアという、AIU一期生の水野さんが社長をしているプロバスケットボールチームの練習拠点として、JR東日本設計さんと一緒につくりました。AIUは2006年からです。こども、若者にとって、どう居場所を作っていくかが私のデザインの一番の関心事です。AIUのキャンパスは、元々はミネソタ州立大学が日本校として1990年から2003年まで活動して、2004年にAIUとして開校したものです。半円形の図書館、講義棟、丸い多目的ホール、カフェテリア棟がお手伝いしたところです。



仙田 満氏

アメリカの大学が進出する前は県の林業試験場で、大変緑が多く、既存の樹林を残しながら、うまく建物を配置できないか考えました。プロポーザルのコンセプトはブックコロシウム、本とたたかう場。私は、こどもの成育環境の研究とデザインが専門ですので、図書館は平らが良いのもわかるのですが、知の探求という意味では山や谷があった方が良いのではないかと考え、段状書架を提案しました。このアイデアはここが最初ではなく、以前、福岡県城島町の図書館、文化センターに小さな段状書架をつくったら人気の場所になり、居場所として良いという感じを持ち、ブックコロシウムをテーマにしたわけです。キャンパス全体配置は、できるだけ緑を感じながら、ディスカッションし、憩いの場ということを考えました。メインエントランスを入り右側に約30度のアプローチをそのまま延ばし、視線を遮らない形で講義棟と図書館棟をつくり、2階のブリッジ状の廊下空間を併せて提案しました。プロポーザル時の絵がそのまま実現できた例はこれしかないと思っております。段状の裏側が半円の空間で隠れ場的なところも生まれました。カセム先生から、居心地の良さと学生がどこに居るかわかり合える感じがして、とても安全と評価をいただきました。秋田杉を使うことと、一般的なコストが絶対的な条件でした。全体に、RCの枠の中に木造が入る入れ子の構造です。当時は最高高さ13m、軒高9mが大型木造の限界でした。県立高校程度の約25万円/m²と安い単価です。市場流通材を使っ

た構造で、無落雪屋根としております。ハイサイドライトを入れ、全体的に明るい感じが大変重要です。構造設計は山田憲明さんです。秋田杉と伝統大工技術を積極的に用いて、繊細で奥行きのある空間を作っており、径は5寸から8寸、長さ4mから8m程度の芯持材が主要材です。周辺部分はRCで、鉄骨、木造で構成しております。重ね透かし梁で、5寸から8寸ぐらいを繊細な形で構成しております。中央の柱も約360φで、重ね梁を取り付けております。全体的に唐傘状になっております。木造の建物は追い締めができることが極めてメンテナンス上も重要で、ディテールを非常に検討しております。その結果、AIUのシンボリックな建築になっていることを設計者として大変嬉しく思っております。私としては、段状に書架を並べるだけでなく、そのうしろ側に閲覧机を入れることがすごくこだわった部分で、1階から2階は約4mあるのですが、平均的には1mの段差であります。幅は2.7mぐらいで、書架の机の高さを1.1mにしております。学生が下を向いた時にはプライベートな空間、顔を上げると全体が見渡せるという視線的な設計です。居場所として隠れた感じで集中でき、顔を上げると全体が見渡せるという関係性です。これが、自分の部屋ではなく、この場所で勉強したいというモチベーションとなっているのではないかと思います。1階のところは、杉林がしっかり見えるように開けております。講義棟はアプローチに沿った形で緑が連続していくような形で配置しております。多目的ホールはRC造で外側に木を貼っております。体育館や約700席の劇場としても使い、周辺はランニングコースという構成です。カフェテリア棟は約80席でゼミや学生の自主的な活動にも使われております。最初のスケッチの耐力壁を四方に回す形を段々に要素化して、木造のアーチのような構造に突き詰めました。屋根が中央に少し勾配を盛っております。折線アーチという線材を45度傾けており、角の部分が一番難しいところです。私は「遊環構造」を長年、やっていますが、1985年に学位論文で作った頃のもの、AIU図書館の頃から「グレートホール」というめまい空間を中心的なものにしていく形で、少しずつ変わってきております。2つの理論が非常に重要だと考えております。1960年、イギリスの精神医学者ジョン・ボウルビイのこどもたち、特に赤ちゃんには安心基地が必要というアタッチメント理論と、景観地理学者のジェイ・アップルトンの隠れ場理論です。アタッチメント理論は小さいこどもたちが健全に育つためには、幼児段階に優しく、こどもたちの行動を見守る母親などの安全・安心基地が必要という理論です。安全・安心基地は人だけでなく、空間にも及ぶと考えております。アップルトンの理論は眺望と安全のために身を隠す環境に居たいという欲望の隠れ場の2つが同時的に必要と考えております。それをD字体という空間構成で、集中と開放の両立、集中とワンダリングが創造には必要と考えております。D字体は集中と開放を両方持つ、安全基地としても非常に重要なのではないかと考えており、学生の居場所としての図書館はD字的な空間構成と考えております。今年7月16日にオープンした石川県立図書館はAIU図書館の一つの展開として、D字体が2つ重なった形で半円ずれております。AIUに比べ、車椅子でも全体が回遊できるよう展開しております。全体に、勾配が緩いスロープを設けております。これらの考えをまとめて、この10年で5冊くらい本を書いております。

大学を支える秋田杉による建築の意義など

《小原》カセム先生から図書館を使っている立場、建築学を修学され実務に携わった立場から、秋田杉による建築の意義等について、お話しいただければと思います。

《カセム》マスの理論で言うと、先生の設計の成果物は達成感とかインスピレーションとかを与える空間ではないかと思います。秋田杉の素材感の温かさは何とも言えません。変化に対して人間

が安心して没頭するだけでなく、何か新しいものを気付くわけです。教員の中でも、あそこに行って、自分を自己回復してきますということを聞きます。マスよりも高度なレベルのニーズにも先生の建築物が目指しているということを理論付けたら良いかなと思ったのが一点。二点目が、時代の流れで技術が変わっていくもので、設計した時にはまだ、空調のゾーンコンディショニングがそんなに浸透していなかったと思います。暖かい空気は皆、上に行ってしまうんです。そこをもう一回分散するためにはどんな工夫をすれば良いか、グリーンエコノミーの時代ではもう少し、環境に配慮してエネルギーコストを減らせると思います。秋田杉が安心感だけでなく、非常に優れた機能を果たしていると思います。素材を機能的、かつ、感性的な価値を含めて考えたら良いと思います。学生は、10時から朝の7時までの夜間営業の間、平均、毎時間おきに何十名も来ている。昼も夜も関係なく、あの図書館を味わって学んでいることが、私が本当に大学を誇れるものとして思っている根底にあります。

持続可能な社会実現のために建築が果たす役割等

《小原》我が国では2050年カーボンニュートラル実現に向けて、省エネ対策を推し進めております。また、感染症流行が沈静化しつつあり、政府の観光振興策が始動したところです。仙田先生には、持続可能な地域社会実現のための建築の役割やコロナを経験した未来のあり方などについて、お話しいただければと思います。

《仙田》AIUの図書館の秋田杉の空間は、ほかでは味わえないと感じます。子どもたちにとっても、木造の建物で過ごす、温かさや優しさなどの部分は、学校で風邪を引く率等が少なくなるエビデンスも出ていますし、東大の有馬先生のマウスの実験でも人間の環境として木材の持つ環境調整できるのは何事にも変えられないと感じます。建築学会会長の時に地球環境・建築憲章を作り、もう20年も経っています。しかし、私たちの地域、国、地球がこの20年間で希望が持てる形になっていない。ウクライナで戦争しているところではない。スウェーデンのトゥーンベリさんが2018年に気候変動の問題に対して抗議しました。子どもたちが地球の変化を深刻に考えているのに、大人が応えているか考えてしまいます。私自身も、様々な制約、要求、矛盾を抱える中で、我々が次の世代に対して頑張らなければいけないと強く思います。我々建築家が作る建築が子どもたちの居場所として成立しているか、地球環境的な問題だけではなく、精神的な問題も含めて議論していく必要があるのではないかと考えております。

持続可能な社会実現のために地域資源や工学が果たす役割等

《小原》カセム先生には、コロナ禍で対面授業ができずリモートが続いているが、対面でなければ得られないことも数多くある。留学生を受け入れ、送り出している中で、影響を大変多く受けているという話を聞きました。地域資源の役割や影響を受けたコロナ後のあり方等について、お話しいただければありがたいと思います。

《カセム》気候変動条約会議の時、トゥーンベリ女史たちの心配をしました。あのぐらい問題を指摘できる人には、技や生き方、実際の雇用等に関連する解決策を繋げてあげないといけない。そうでないと、運動的に終わってしまう。物事を成し遂げるために5領域のプロジェクトを生み出しているんです。Z世代に解決策、化石燃料から非化石燃料に移るにしても、大半の見えないところで雇用や人の生活が成り立っている。非化石燃料の経済圏の中でどう新たな経済を作れるかが本心です。私の大きな失敗が消費者に理解度を求めればものが変わっていったんです。最近、分かったのは消費者がバラバラで大変難しい。投資家が中長期的に投

資した先がどうなるかを一生懸命、検証するんです。投資家と共にビジネス界を変えるしかないと思っております。秋田は再生エネルギーの中核拠点になることによりビジネス界を呼び寄せる力があります。イノベーションハブは、そういうところをやって見せる場です。一大学とか一企業とかではできない。社会運動ではなく、社会変革として取り組みれば成し遂げられます。力を貸していただければ、Z世代を提供します。

《小原》 仙田先生、今のカセム先生のお話を受けて、少し感想をお伺いできればと思います。

《仙田》 AIUでは、カセム先生の思いを実現できる人材が育っていると思います。ノーザンハピネットの水野さんはプロバスケットチームを作りこども食堂までやっている。個性的な人材を輩出しており、地球環境についてもAIUの理念が実を結ぶと期待しております。

《小原》 AIUの第一期卒業生から、そのような方が生まれているということは、木のある図書館が多大な貢献し、AIUも発展していると思います。最近コロナも少し沈静化してまいりました。我々は、対処療法を続けて来ただけで、コロナが生まれて来た根源的なことを理解せず、解決したわけではない。その辺について、カセム先生は非常にお詳しいので、少しお話していただければと思います。

《カセム》 コロナだけではなく数百ぐらいの病原体が動物から人間の方にうつる危険度があります。これは、生物多様性の損失が原因です。大動物がいなくなると、ウイルスのような病原体が小動物にうつるんです。大動物より小動物の方が判断が速く、繁殖が増えるわけです。そこがコントロールできなくなることにより、人間社会で接点ができ病原体が広まるんです。このメカニズムは2012年あたりから論文で引用しております。コスモス国際賞の今年の受賞者バードカレッジのフェリシア・キーシング先生が学際的な専門性で検証した結果、はっきりこれだということを証明しました。立派な機関誌に載っていますが、人々のヒットレシオが波を越えてなかったんです。コロナ発生の瞬間に急速に上がるんです。人間社会は如何におろかということを実証しています。教育の時点でその価値観を形成して、先を読むことは何かバラ色のものを語っているということではなくて、本当にこういうふうにしていけば、成し遂げられるということを見せてあげなければならない。例えば小さな実験ですけども、今、気候が変動している。秋田県は農業県。農業が打撃を受けます。これを学生諸君に大事だということは講義では伝えられますけど、物を自分の手で植えて、あのかわいい植物のトマトの実が出て来た時に大雨でやられちゃうということを体験することによる学びが、教師なんかより、はるかに大きいです。今、私、葉ものと実ものを植えさせているんです、学生に。学生と一緒にやることによって、物事を自分の手で変革する体験が付きます。それが、応用国際教養教育だと思うんです。Z世代を世界中の我々の200ぐらいのパートナー大学の方に広めてあげれば、あのグレダ・トゥーンベリの怒りが希望に変えられると思います。コロナ禍で学びは途切れているんです。あの感性豊かな環境は味わえなかった。先を読んで、行動を一步でも踏み出すことは大変大切だと思います。オンラインを学校の中で対面に戻した。戻したら、彼らが人間と人間が接触する喜びを感じました。そこから、深い友情と信頼関係が生まれて



モンテ・カセム氏

来るんです。友情と信頼なきにこれから人間社会が求める社会変革はできないと思っております。

《小原》 それでは、仙田先生、お願いいたします。

《仙田》 リモートの良さは実感したけど、限界も知ったと思います。建築も、行動して触れ合いながら前に進む学問だと思います。家で画面を見て学ぶのではなく、その場所で友人らとディスカッションして、建築的空間や自然の中で出かけて行こうと思わせる居場所をぜひ、作っていかなければならないと感じます。

《小原》 カセム先生から、コロナは生物多様性の損失の影響であり、学際的な専門研究で検証されているとお聞きしました。仙田先生から、建築はリモートでは限界があり、建築は行動して触れ合い初めてできるとお聞きしました。木や建築の役割は非常に大きいと感じたところです。そういう意味で、今回の大会、記念対談 n 開催は、大変、意義のあることと思います。もう一言、お願いしたいと思います。

《仙田》 建築は対面で様々な情報交換を通じて創造性が生まれると思います。リモートで創造的なディスカッションはできないと感じており、このような大会の開催は建築界にとって重要で、今回の大会の開催を共に喜びたいと思います。

《小原》 今回の記念対談で仙田先生にお会いできて、生でお話もできました。カセム先生から最後に、お話をいただけたらと思います。

《カセム》 リモートが全部否定的だと聞こえたかもしれませんが、助け船であったことは事実です。だけど、助けた期間が常軌化し、ニューノーマルだと思ってしまうと問題が出ると思います。リモートがなかったら、教育は閉じられてしまいます。ウクライナの問題でエネルギーや食糧危機等々を我々が肌で感じるようになったところで、ウクライナの 14 人の学生が AIU の講義を受けたんです。困った人々にはオンラインで助け船になれると思います。今、秋田県下の大学コンシアームと一緒に、ウクライナの学生をどう呼び寄せれば良いかが協議の課題にはなっております。その身近な友を皆さんと同じように対面で出会う日を首を長くして待っております。今日招いてくださって、良かったなど。会場の皆さんが我々の話を聞いてくれたことを心から感謝しております。本当にありがとうございます。

《小原》 本日は、建築士会、秋田の未来にとって、非常に意義深い貴重なお話しを伺うことができました。カセム先生、仙田先生、ありがとうございました。

(記念対談 統括責任者 小原 正明／秋田中央建築士会)



記念対談 カセム氏、小原理事



記念対談 仙田氏、野村氏

大交流会



鏡開き（乾杯）



余興 西馬音内盆踊り

3年ぶりの参加者全員対面による大交流会は約800人にご参加いただき、秋田キャッスルホテル4階放光の間で開催いたしました。コロナウイルス感染症対策を徹底することから会場入り口前での混雑も予想しておりましたが、スムーズに入場して頂くことができました。ウェルカムドリンクでお迎えし、開会までは「あきた大会」PRビデオをご鑑賞いただきました。

定刻に開宴となり秋田県建築士会会長 淡路孝次の挨拶のあと、鏡開きは近角連合会会長と淡路秋田県会長、そこに小町娘も加わり、更にはなまはげも乱入(?)し賑やかな乾杯が地酒にて行われました。

テーブルには「あきたこまちのおむすび」、「いぶりがっこ」をご用意し、ビュッフェコーナーには「秋田のおもてなし料理」、屋台コーナーには「稲庭うどん」や「きりたんぼ鍋」、「秋田牛ローストビーフ」等の郷土料理を取り揃えました。また、酒の国秋田を堪能していただく為に「もっきりコーナー」を3か所に設け、県内34の蔵元から自慢の銘柄100本をご用意し楽しい時間を過ごして頂きました。アトラクションとして「西馬音内盆踊り」をご披露しました。勇壮な囃子の中、あでやかな端縫いの衣装で踊り手が登場し、しなやかな手振り足運びが織りなす幻想的な舞に会場が盛り上がりました。

その後、次年度開催の静岡県建築士会の飯尾会長からの挨拶と皆様による大会アピールがあり、来年の再会を約束いたしました。楽しい時間は早いもので、最後に秋田県建築士会石川副会長の万歳の音頭で閉会となり、和やかな雰囲気の中終了となりました。

会場の規模の都合により秋田士会会員が皆様と交流ができなかったことが大変残念でありました。スタッフ一同、おもてなしの心を持って対応させていただいたつもりですが、至らぬ点多々あった事かと思えます。ご参加いただいた皆様が、秋田を堪能していただけたのであれば幸いです。ご参加ありがとうございました。

(大交流会 統括責任者 谷口 満州美/秋田中央建築士会)



大交流会 会場(3年振りの対面開催)



振る舞い酒 美酒王国あきた
(県内34蔵元)



しずおか大会 PR

記念展示・企業出展・飲食コーナー

企業出展は、16社。エントランスロビーに13社、建物外正面に3社の配置とし展示いたしました。各社とも、それぞれのほり旗や展示等に工夫を凝らしたレイアウトで多くの参加者にアピールしていました。

記念展示は3階ホワイエにて、第2回 日本建築士会連合会建築作品賞入賞作品、「伝統技能者表彰者」仕事風景紹介、女性委員会全国女性建築士連絡協議会、秋田県建築士会活動紹介、また秋田市文化創造館2階に青年委員会のパネル展示を行い、多くの皆様に見て頂きました。

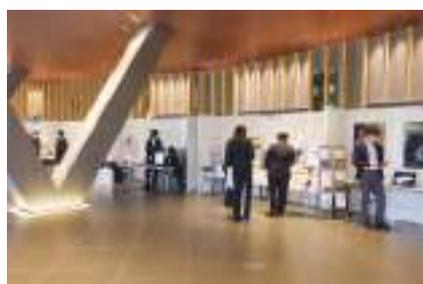
飲食コーナーは別棟に配置し、入口には秋田の地酒『もっきりコーナー』を設けました。午前中から多くのご利用を頂き、秋田県内のお酒を飲み比べしている方もおられ大変にぎわいました。

大交流会会場近くには11台のキッチンカーを設置し、食事をとりながら竿燈の演技を観賞された方も多くおられました。

(出展・展示 統括責任者 佐藤 隆志／湯沢雄勝建築士会)



記念展示



企業展示



飲食コーナー

地域交流見学会(エクスカーション)

Aコース

世界文化遺産と十和田湖・秋田犬・歴史的建物を巡る

参加者：30名

1日目：本コースは、県の東北側に位置する青森県境の3市を巡るものでした。コース内で唯一1泊2日の長旅でしたが、道中の景色は目に優しい濃緑のスギ林が続きました。初めに訪れた北秋田市では、学芸員さんのガイドのもと、昨年ユネスコ世界文化



伊勢堂代遺跡



桜櫓館

遺産に登録された「伊勢堂代遺跡」とその出土品を展示する縄文館を見学し、北東北の縄文文化に触れました。そこから東に向った大館市では、「ニプロハチ公樹海ドーム」、「桜櫓館」、「大館八幡神社」、「鳥潟会館」を訪れました。昭和の香りが漂う「桜櫓館」では、まちづくり課長や当支部のヘリテージマネージャーから市の歴まち政策・桜櫓館の耐震補強について説明を受け、昼食には大館名物「鶏めし弁当」を堪能。おなかも満たされたところで、3匹のかわいい秋田犬とのふれあいタイムとなりました。大館市の日程を終え、明日に

備えて鹿角市の十和田ホテルへと向かいました。

(石川 成・熊谷 昌剛／大館北秋田建築士会)

2日目：紅葉も半ば十和田湖を後に明治時代より鉱山の技術の先端担っていた小坂町へ 旧小

坂鉱山事務所(国重要文化財指定)では木造螺旋階段に魅了され、現存する日本最古の木造芝居小屋 康楽館(国重要文化財指定)を見学。東北の小さな町で高いレベルの文化をもたらした経済力に感心しながら小坂レールパークにてレールバイクに乗車しばし童心に帰り楽しみました。最後はユネスコ登録 鹿角市大湯ストーンサークル(国内最大のストーンサークル)環状列石中央の立石(日時計説)などを見て古代の暮らしと、祭祀の場を想像しながら当時の集団を纏め上げた大きなパワーを感じ古代に思いを馳せました。「歴史、文化、季節」を感じ、旅の良い思い出を作って頂いたと思います。(中西 純悦／鹿角建築士会)



樹海ドーム



十和田ホテル



康楽館



旧小坂鉱山事務所



ストーンサークル

Bコース

秋田内陸縦貫鉄道でゆく・紅葉の大自然とマタギの里探訪

参加者：61名

本コースは、バス2台で秋田県の山間部へ。秋田杉の巨木を構造材とした「道の駅かみこあに」で休憩し、途中乗車した地元の山岳会と企業の方から「森吉の魅力」と「秋田の木」について講話を頂きながら森吉山山麓駅へ到着。朝からの雨は上がったものの濃い霧の為、山頂駅で遠景を眺めることは出来ませんでした。ゴンドラの乗車中には真っ盛りの紅葉の情景を楽しむことができた他、駅舎前では「とれたてキノコ汁」が振る舞われ、冷えた体を温めてくれました。



ゴンドラからの風景

下山し、国重要文化財の「阿仁異人館」・伝承館を見学の後、阿仁合駅からは観光車輜2台を貸切っての至福の旅へ。角館駅までの到着の間、地元食材による「ごっつお(ごちそう)玉手箱弁当」に舌鼓を打ち、現役マタギの話聞きながら、車窓からの景色を楽しみました。満足感を得ながら、角館からは再びバスに乗り帰路についたのでした。

(小笠原 寿・松橋 雅子／大館・北秋田建築士会)



森吉山ゴンドラ駅



あきた犬とふれあい



阿仁異人館・伝承館



内陸線 阿仁合駅



内陸線車内

Cコース

木都能代と研究拠点を巡る

参加者：30名

バスガイドさんが車内で言うとおりの、一般の観光コースと違い、レアなコースでした。

木高研ではさっそく建築の「け」がお出迎え。森林から流通・開発・利用システム、資源活用まで、本館や試験棟、実験棟等の施設見学で建築の役割を体感できたと思います。

快晴になった後に向かったのは旧料亭「金勇」。天然秋田杉が張られた天井は金勇ガイドさんが言う通り誰も触る事はできません（一番大きな笑いが起きてました）。他に長欄間の技術や、廊下に敷かれた長さ 25m の継ぎ目のない畳の上敷きに感動の様子でした。昼食は能代地域で食される事の多い『だまこもち鍋』を 2 階大広間で黙食。お酒類を提供すれば少し賑わえたかな、と振り返りますが、食べての「け」を味わって頂きました。

ここから時間の都合でコース変更です。先に「道の駅ふたつ」に寄って、時間があれば「きみまち阪」散策という事を説明。この道の駅は平成30年のオープン以来、県内外から年間100万人の訪問者がある人気の施設です。駅長さんのお願いの挨拶もあってか、皆さんお土産を沢山買われておりました。ここが来てけれの「け」です。以上、Cコースの「け、け、け」でした。（大高 勇／能代山本建築士会）



木材高度加工研究所



旧料亭金勇



旧料亭金勇 内部見学



旧料亭金勇 昼食



道の駅ふたつ

Dコース

日本海の水平線と世界文化遺産「なまはげ」巡り

参加者：39名

男鹿市の入口に建つ「巨大なまはげ」を眺めて記念撮影をし、男鹿半島の付け根にある標高 355 メートルの寒風山（かんふうざん）へ。さえぎるもののない山頂からの 360 度パノラマ風景は、半島や八

郎潟の干拓地、日本海の海岸線を眼下に一望でき、皆様に感動していただけたと思います。次に向かった「なまはげ館」は男鹿石を多用した外観と秋田杉をふんだんに使用した内装、案内サインはモザイク作家の上哲夫氏によるもので、館内には男鹿市内各地で実際に使われていた150枚を超える多種多様ななまはげ面が勢ぞろいし、圧巻の迫力で感嘆の声が聞こえました。伝承館では大晦日のなまはげ行事の再現・実演を体験していただき、その後北緯40度ラインにある入道崎を散策し、昼食は魚介の入った桶鍋に400度に熱した石を投入して調理する「石焼鍋」を、日本海と青空を眺めながらご賞味いただきました。なまはげ三昧のコース。楽しんで頂けたのではないのでしょうか。



巨大なまはげ像前



入道崎 昼食



昼食 石焼鍋実演



入道崎

(佐藤 紘一／秋田中央建築士会)

Eコース

国の登録有形文化財を活用した事例に触れる

参加者：31名

築70年を経て往時のたたずまいのままの校舎をめぐる、木育をめざした「おもちゃ美術館」の今を観ていただきました。すべり台の下の木のどんぐりのプールでは足を踏入れる参加者もあり、木のぬくもりを感じていただいたかと思います。やや滞在時間が短くなってしまい、もっとゆっくりまわりたかったとの声がありました。



鳥海山木のおもちゃ美術館



白瀬南極探検隊記念館では探検隊やオーロラの映像を観ていただき、南極の氷の溶ける音に耳を澄ましたり、隕石を手にとりその重さに驚いた方もおられました。また、当時の毛皮製の防寒具に触れて探検隊の厳しい旅に感嘆しておられました。



蛸満寺 本堂



蛸満寺 境内

蛸満寺は松尾芭蕉も訪れたところです。ガイドさんの力強い解説にやや圧倒されつつも、歴史や七ふしぎ伝説等に聞き入りました。境内前に広がる九十九島の景観を観ながら散策し、芭蕉の句に登場する「西施像」の前ではしばし思いをはせる参加者の皆様でした。あいにくのくもり空で九十九

島の成因となる鳥海山の雄姿を観ることができなかったのが残念でした。

(高橋 幸治／由利建築士会)

Fコース

「みちのくの小京都 角館」～江戸時代の武家町さんぽ～

参加者：88名

秋田でも屈指の観光地「角館」のまち歩きを中心にした満員御礼のコースとなりました。

秋田市内をバスで出発し、まずは角館への道中にある「門脇木材」の工場見学へ。「木は全部使い切る」という精神のもと、原木が製材や燃料用チップに



門脇木材



門脇木材工場内

なっていく様子を見学しました。まさに我々の仕事に直結した製品が出来上がっていく様子に質問が相次ぎました。途中、安藤醸造北浦本館にて名物の醤油ソフト等で休憩をとりながら角館の街へ。

人気観光地といえども小さな街、角館では二手に分かれ、昼食場所や見学の時間帯を変える等の工夫をしながら東北最古と言われる安藤醸造の煉瓦造りの蔵や、「かくのだて歴史案内人」のお話を聞きながら、黒堀が続く武家屋敷通りを散策しました。全国の建築士を前に説明に熱が入り、自由時間が少なくなってしまったのが残念です。コースの中で行き届かない場面もあったかと思いますが、参加者の皆様には心よりお礼申し上げます。

(鈴木 有扶子／仙北建築士会)



安藤醸造店前



安藤醸造



角館武家屋敷 散策

Gコース

商家のまちなみと内蔵の探訪

参加者：28名

横手市増田は江戸時代から商人の町として栄え、明治から昭和30年代にかけて建てられた商家、家屋が評価され、平成25年に重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。そのまちなみと内蔵の探訪は全国各地から28名の参加で実施されました。



増田まちなみ散策

見学は公開されている中から、日の丸醸造本社、重要文化財旧松浦家住宅、重要文化財佐藤家住宅、

横手市指定文化財旧石田理吉家、横手市増田まんが美術館としました。建築士の探求心とぜひこれは見ていただきたいと思われる建物を選定し、2班の分け、見学場所では、更に各班を3つに分けて、参加者に説明がいきわたる配慮と効率の良い見学を心がけて、横手建築士会会員は、先導と誘導、各建物での説明と参加者と同数ほどのスタッフ、加えて地元のNPO 増田地域活性化ステーションの協力もいただき対応させていただきました。

旅の楽しみの昼食も「くらを」で、発酵のまち横手にふさわしい食材を堪能していただけたと思います。
(鈴石 博実／横手建築士会)



旧松浦家住宅



日の丸醸造本社



増田まんが美術館

Hコース

白井晟一 秋田時代を探る

参加者：57名

出発点の秋田市より南へ最も遠い湯沢雄勝地域には白井晟一氏の昔の建物が多く存在しております。全国から57名の建築士に参加いただき、バス2台の大所帯で楽しく行程を終了することができました。湯沢市街地の『四同舎』から『試作小住宅』雄勝地区へ向かい、稲住温泉より『旧秋ノ宮役場～浮雲～琅玕席』と、タイトなスケジュールではありましたが白井作品の代表的な建物を探訪する事ができました。白井先生の根強いファンの方々が多くお越し頂き、解説する清水川氏より詳しい方もおられて大変賑やかに交流する事も出来ました。湯沢市は豪雪地帯のために建物の一部が破損している事を非常に残念に思う方もおられ、存続していく事の難儀さと課題も話題にあがる事により、古き良き時代を語り合い湯沢雄勝の未来志向の旅を堪能する事が出来ました。ぜひこれを機会に稲住温泉をはじめとする湯沢市の地場観光資源も含めて語り継いでいけたら幸いです。
(由利 靖／湯沢雄勝建築士会)



四同舎前で



四同舎 内部見学



四同舎 階段



稲住温泉離れ3室



高久酒造茶室

秋田セッション

テーマ 秋田杉と傘型屋根の「ブックコロセウム」

～設計担当者が案内する「国際教養大学図書館の見学」～

秋田セッションでは、本施設の設計担当者である（株）環境デザイン研究所 管理建築士・ゼネラルマネージャーの野村朋広氏を講師に迎え、平成 20 年 3 月に完成した「国際教養大学図書館」について説明を受けた後、施設見学を行いました。

<国際教養大学の特徴>

国際教養大学は、秋田市南部の閑静で豊かな森に囲まれたエリアに位置する公立大学です。平成 16 年に開学以来、すべての講義を英語で行うほか、1 年間の留学義務があるなど独自のカリキュラムを展開しており、全国各地から多様な学生が集まり、卒業生も世界各地で活躍しています。

また、大学周辺に学生宿舎や教員宿舎が配置されており、学修・居住一体型キャンパスを大学の理念のひとつとしています。

<24 時間 365 日開館の図書館>

学修・居住一体型キャンパスを支える施設として、学生たちの学ぶ意欲に応え、いつでも時間の制約なく勉強に集中できる環境を提供するため、国際教養大学の図書館は眠ることがありません。

「本のコロセウム」をテーマに「本と人との出会いの場となる劇場空間」としてデザインされたこの図書館は、24 時間 365 日、学生たちが本と向き合い、勉学に打ち込む「知の闘技場」となっており、洋書を中心とした段状の半円形大空間「グレートホール」と、和書中心とした 1 階のリーディングスペースから空間が構成されています。

<秋田杉による新しい木造空間>

半径 22m の半円形の大空間には、木造伝統工法と小径木の製材を組み合わせた合成梁による新しい木構造システムが用いられています。外周部の鉄筋コンクリート壁と中央にある 6 本の杉材（300 φ）による集合柱を基点とし、中間部分に半円形の鉄骨トラス梁を架けることで木造部分の架構スパンが短く計画された、全体として合理的なハイブリット構造が形成され、美しい秋田杉と伝統技術を生かした傘型屋根が織りなす落ち着きと安らぎのある空間となっています。

本来であれば、多くの大会参加者に見学していただきたい秋田を代表する建築でありましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、また、静寂な学習・研究環境を保持するため、多くの参加希望者をお断りしなければならなかったことを改めてお詫び申し上げます。普段は一般利用者の受入れを行っている施設ですので、どうぞ次回来秋された折には、美しい図書館で時間を過ごしてください。

（秋田セッション 統括責任者 能上 崇／秋田中央建築士会）



国際教養大学講堂にて説明



図書館見学

感謝と感激そして感動

あきた大会実行委員会副委員長（秋田中央建築士会会長） 田 仲 雅 美

全国大会無事終了。皆様、大変お疲れさまでした。

3年ぶりの主管地開催となった第64回建築士会全国大会「あきた大会」。10月14日、コロナ禍にも拘わらず全国から2700名を超える参加者が、メイン会場のあきた芸術劇場（ミルハス）を中心に集う。真っ青に澄んだ秋空のもと続々と会場に到着。受付前に、会場入り口で出迎えした「ナマハゲ」そして「はちくん」、「たんぼ小町ちゃん」の着ぐるみと記念撮影する団体。特に、交代で出迎えた秋田美人（秋田市観光レディ）との記念撮影には希望者が殺到し、会場入り口は大混雑。これだけでも、十分オモテナシの気持ちが伝わり、参加者も「秋田」を実感したようである。

受付を終えた参加者は、9月23日グランドオープンしたミルハスを見学する人。午前プログラムの各セッション会場への移動。午後の国際教養大学カセム学長と同大の図書館設計を手掛けた仙田先生の記念講演（対談）。或いは、大会メインの記念式典までの間、好天のもと千秋公園や中心市街地「エリアなかいち」周辺を散策する人。会場の中も外も大勢の人で賑い、いつもは人影まばらな広小路も活気に溢れていたであろうと想像できた。

終日、ミルハス内での役回りだったこともあり、ほとんど外に出る機会は無かったが、ホールの窓越しに「秋田市文化創造館」周りの緑地で青空のもとくつろぐ大勢の参加者（酒類屋台の利用者も数多く）に感謝。そして、その光景に「安堵の気持ちと素晴らしい好天に心からエガッタな〜！」と感激した次第です。

未だ終息しない「新型コロナウイルス感染」拡大に翻弄され、開催の1年延期が決定。日程変更を余儀なくされたものの、新築オープン予定の「あきた芸術劇場」をメイン会場に確保出来たことは嬉しい誤算であり、41年ぶりの「あきた大会」開催に大なる弾みとなった。そんな状況の中、日程と会場決定後のプログラム内容や具体的な計画の精査、種々の手配や準備そして詳細な進行シナリオ、翌日のエクスカーション等々、超多忙を極めるなか連合会との調整・諸準備を的確にこなし、主導してくれた事務局と運営に協力いただいた各支部の皆様のお陰とただただ「感謝」の一言を申しあげたい。

また、手弁当で大会テーマの提案・ポスターの考案・大会用ジャンパーの構図等々、そして大会PR用プロモーションビデオの制作に多くの時間と労力の提供で素晴らしい才能を発揮され青年委員会・女性委員会・事業委員会の皆様への感謝は勿論、すべてに感涙するほど感動した。好評を博した『『建築』で挑戦！ 郷土のこれから ~け、け、けの秋田でまづかだれ~』・・・「あきた大会」盛会裏に幕。バンザ〜イ！バンザ〜イ！バンザ〜イ！

全てに、感謝、感激、感動・・・大変お疲れ様でした。



開会宣言 田仲副会長

大会を終えて

あきた大会実行委員会副委員長（横手建築士会会長） 照井 郁 人

第64回建築士会全国大会 あきた大会を終えて2ヶ月が過ぎ、やっとほっとする事が出来るようになった。

週れば、2018年7月31日の第1回実行委員会から始まり、2020年3月にコロナが発生、突然全国で会議大会等の自粛が始まる。第63回広島大会も延期になり、全国で県をまたいだ交流が途絶えてしまう。そんな中、在宅でZOOMを通じての会議、交流が盛んに開かれるようになり、いろいろな事が可能となった。遠方の講習会が自宅にて受けれるようになり、終了証も発行され遠方への出張が不要になった。

2022年10月14日8時ミルハス1階ホールに全県からスタッフが集合、植田さんの声でいよいよ大会が始まる、この数ヶ月、土日祝日夜も休みなく働き大会を引っ張っている、事務局の二人の頑張りで今日が迎えられた、もちろん、秋田県全域のスタッフも素晴らしい、集合した表情はやる気満々。

天気は快晴、風も無く、会場のミルハスも素晴らしい、4年間進めて来て、こんな最高の日を迎えるなんて、天空の神様が微笑んでいるとしか思えない。ところで僕の仕事、式典閉会挨拶、午前中、田仲副会長と壇上に上り、リハーサル、圧倒的な客席を見上げ、この場所に立っている事に感謝する、名古屋から移り住んで42年、こんな名誉を頂けるなんて、お世話になったみなさんへ感謝しかない。

午後いよいよ式典が始まる、実は始まると共に涙が溢れて焦っていた、あっとゆう間に出番、挨拶を始めようかと思って鼻をすすると、『は〜』と一息、会場の笑いを誘い、頑張れとの一声、後で判った事だが、顔一面がUPされて涙を流していた事が会場の方々にはばれていた。一瞬の音がこんなにも大きく拾うとは思っていなかった。挨拶も終わり無事に終了とはいかず、マスクを落とし、またチョンボ、自身でも笑ってしまう挨拶だった。

翌日のエクスカッション、スタッフが集合して和やかに進行する、埼玉大会エクスカッションで一緒だった埼玉県の村田さん、前日もお会いしたが増田まで個人で駆けつけてくれた、僕は引率の役目で相手に出来ない、そんな時、スタッフの一人が任せての一言で助かった、村田さんは満足して昼頃帰って行った。最後にまんが館前で参加者全員の記念撮影、いつの間にか「商家のまちなみと内蔵の探訪」の横断幕、ありがたい、鈴石さんが昼休みに墨で書いて準備していた、10月15日あきた大会Gコース充実の記念撮影であった。

秋田駅は予定通り各コースから次々とバスが帰って来ている、植田さん伊藤さんが迎えに来て、参加頂いたみなさんを丁寧に送りをしていた。終わった！最後に伊藤さんに挨拶するも言葉にならなかった。秋田駅を後にし横手駅でスタッフと別れた、すべてが終わった瞬間、僕の後悔がはじまる。安堵感も無かった。悔やむ事ばかりが浮かんでくる。考えれば、41年ぶりの大会は僕にとって、最後の大会で取り返す機会が無い事に気が付くのである。そして、晴々とした気持ちになれない日々が続き10月28日横手スタッフ慰労会を迎える、記念撮影、みんな笑顔、スタッフの楽しかった、また、やりたいの声、僕は初めて笑顔になった。スタッフみなさん、ありがとうございます。「ブラボーあきた」



閉会挨拶 照井副会長

全国大会を終えて

あきた大会実行委員会副会長（大館・北秋田建築士会会長） 石川 成

私自身は本当に有意義な大会であったと思います。

とにかく植田さんを初め、伊藤さん・菅原さんたち事務局の働きが無かったら、そして淡路会長の統率力が無かったら、会員一人一人の結束力は生まれなかったと思っています。会員みんなの「笑顔で迎えよう」という思いが伝わった大会であったと思います。

青年委員会や女性委員会は2年ほど前から準備し、素晴らしいポスターやスタッフジャンパーの色・デザインを考え、PRビデオも制作してくれました。あのビデオを初めて見た時、感動で涙が止まりませんでした。そして、この大会はきっと成功するだろうと思いました。本当にお疲れ様でした。

それに引き換え、私は何もしていませんし、何もできませんでした。只々皆さんを応援することだけしか出来ませんでした。

大会前日の「全国士会長歓迎懇談会」の折には、ネクタイをトイレに忘れたと思い込み、照井副会長の一張羅のネクタイを借りて出席しました。照井さんありがとうございます。

大会当日は、スタッフジャンパーを旅館に忘れ、予備を貰って参加。一番楽な「VIP・来賓担当」という事でしたが、ミスは絶対にしてはいけないと思い、前日の至らなかつたところを再チェック。秋田中央の相馬さん・大館北秋田の熊谷さんの二人のスタッフに恵まれ、当初VIPは舞台裏で待機の予定でしたが、PRビデオを興味深げに見ていたの、「なまはげ太鼓」が始まる前に会場の席の方に移動して、一番の席で鑑賞して頂きました。

そして大交流会での「中締め」です。決められたとおりに言わなくてはならないと練習しようと思しますが、あの人の多さです。しょうがなく7階のスタッフ用の会場へ向かいますと、そこは雰囲気は全く違い、ゆったりとしていて楽しそうに会話し飲食をしています。勧められるままに吞んで食べて会話していたら、突然電話が鳴り、「みんなが探している。中締めの予定が早くなった。」と言うではありませんか。急いで4階に下りて行ったら、人数が1/3になっていて、みんな連合会会長を囲んで記念写真を撮っています。こっちはそれどころではありません。言うべきことを必死で順序良く頭の中で並べてみますが、なかなか上手くいきません。何とか無事終わることが出来ましたが、ある人に「成さんはいいね。詰まっても笑って済ませられるから。」と言われました。でも、最後のお見送りの時、連合会会長が「締めの挨拶よかったよ。」と声を掛けてくれたのが嬉しかった！。

ところが、次の日のエクスカーションでは声が出ません。そう言えば、あの中締めの時、3回目の「バンザイ！」で喉の奥で何か切れたような気がしたんです。あんなに準備していたのに、案内は全部熊谷さんをお願いする羽目になりました。

これが私の取るに足らない「建築士会全国大会あきた大会」です。



閉会 万歳三唱 石川副会長

『感動の大成功』あきた大会を終えて

あきた大会実行委員会副委員長（仙北建築士会会長） 小田島 誠

10月13日8時40分ミルハスに到着。改めて良い会場だ。天気は快晴。これから始まる3日間がどの様になるのか一抹の不安あり。

裏口から会員が続々集まる。大会の意気込みが伝わってくる。

9時、各担当に分かれて作業。私は『総務・財務委員会』で袋詰め作業。2700個程を40名位で作業に掛かる。中々大変で昼食を交代で取り昼過ぎまで掛かる。その後受付の会場設営。ミルハスが全国大会の会員を迎える雰囲気になって来る。

その後、連合会理事・士会長合同会議終了後の『歓迎懇親会』対応で田仲副会長・石川副会長・照井副会長と共に『フレンチレストラン千秋亭』行き歓迎の準備に掛かる。懇親会は小幡さん（横手建築士会）の司会で淡路会長の歓迎の挨拶、近角会長の挨拶、三井所名誉会長の挨拶に続き、乾杯を北海道ブロック高野会長で懇親会が始まる。

ブロック別を基本としたセッティングで私は九州でした。3年ぶりの開催ということで『あきた大会』への期待大きさを感じる。終了後は各県でセッティングしている懇親会に向かい秋田の夜を存分に味わうつもり。川反にも多大な貢献をしたのではないかと。

10月14日本番、8時にミルハス集合。本日も快晴。全員が揃ったところで淡路会長が挨拶。そして『みんな頑張ろー』のコール。いよいよ始まる、『やるぞー』という皆の熱気を感じる。

9時過ぎ参加者が来場。交流セッションも開始となり、いよいよ本番。昼食会場のキッチンカーやもっさりコーナーも行列を作る繁盛だ。

午後は記念対談。そして大会式典。満員の大ホール。なまはげ太鼓でオープニング。田仲副会長の開会宣言。後で『どうだった?』と聞かれたが、受付にいたため聞けずに残念残念と答える。すみません。

淡路会長の開催地会長の挨拶。想いのこもった挨拶が心に染みる。

主催者挨拶・来賓祝辞・表彰式・大会アピールと続き、大会旗引継。次期開催地の静岡県建築士会にしっかり引き継ぐ。

そして最後に照井副会長の閉会挨拶。ジーンと目頭が熱くなる挨拶。

そして大交流会。来場者が3年間これを待っていたのだと想う。地元の仙北市長田口様、美郷町長松田様にご挨拶。本当に素晴らしい大会だとお褒めを頂く。

その後秋田会員の懇親会会場に。大会を終えてほっとした、やりきった顔がある。後で淡路会長も参加され乾杯の挨拶をして頂く。淡路会長より連合会や各地区各県の会長から今までにない最高の大会だと賞賛された話を聞き本当にうれしくなった。

大会準備で植田事務局長・伊藤事務局次長のご苦労は大変だったと思う。マニュアル他多くの資料作成、それがなければ今回の大会は出来なかった。

また、その資料を基に各部門を纏められた部門統括責任者・部門責任者の方々。そして最後にスタッフとして参加された多くの会員。皆さんのお陰で『建築士会全国大会あきた大会』が『感動の大成功』で終わることが出来た。改めて感謝。

今回の大会を通して秋田県建築士会の結束・絆が深まった。会員にとってそれが何よりの財産。今後も会員相互が協力し秋田県建築士会を盛り上げていきたいと思います。



歓迎交流会

第 64 回建築士会全国大会あきた大会を終えて

あきた大会実行委員会副委員長（青年委員長） 草 薙 渉

あきた大会ロス…楽しすぎた全国大会あきた大会。私にとって一生の思い出になる大会となりました。本大会で私は実行委員会副委員長の他、会場行事委員会委員長、秋田県建築士会青年委員長、日本建築士会連合会青年委員と身に余るほどの立場で沢山の役割を仰せつかりました。

思い返せば私が初めて全国大会に参加したのが 2009 年開催の山形大会。会場の入口では巨大な鍋で作られた芋煮が振舞われそれに舌鼓を打ち、花笠を被った綺麗な女性と一緒に写真を撮り、そして山寺へ参拝に行ったこと等、今でもその記憶が鮮明に蘇ります。これをきっかけに社員旅行を兼ねて毎回全国大会へ参加させて頂いていました。そしてそれらを見てきたからこそ、やるからにはこれまでの大会を超える大会にしたいという想いが沸々と。これまで観光目的として参加していた全国大会でありましたが、2018 年開催の埼玉大会より秋田大会を意識した私の準備がスタートしました。例年全国より 3000 人前後の建築士が一同に会する全国大会。私にとっても実行委員会メンバーにとってもこれまでに経験したことのない規模の準備・運営に不安しかありませんでした。案の定、埼玉大会でバックヤードを探れば探っただけ「これ本当に秋田でもやるの?」と、これまで心の奥に潜んでいたちょっとしたモヤモヤが「不安」という感情であったと確信した大会でした。

それからは不安な気持ちに満ち溢れ、これから何をすればよいのか、何が出来るのか、暫くは暗中模索状態が続きました。それでも時間だけは進みます。まず、私達会場行事委員会メンバーが最初に取りかかった作業が大会テーマの決定です。県内会員の皆さんから参考となる意見を頂戴し、それを踏まえあきた大会をどのような大会にしたいのかメンバーで模索し、意見を出し合い数ヶ月の時を経て決定(ここに至るまでメンバー同士の激しいぶつかり合いがあったとか無かったとか…)。ここで、県外参加者の皆がくらくらいついた(自称歴代サブテーマ No. 1 の)「け・け・け」が生まれました。その後、協力会社の選定委員会を経て JTB 秋田支社さんと共に準備を進めることになり、それからはオンラインを併用し合計 30 回近く開かれた委員会の中でフライヤーの作成をはじめ、ノベルティー(A 5 オリジナルクリアファイル)、スタッフジャンパー、幟、大会 PR ムービーの製作、参加者記念品(樺細工マグネット、杉のプレート)の選定等と沢山の準備作業に従事させて頂きました。

中でも思い出深い事が 2 つ程。1 つ目は淡路会長の会社まで押しかけ、大会テーマを書しているところを動画におさめさせて頂いたことです。この時に書いて頂いた「書」は実際にフライヤーの大会タイトルに使用されています。また、大会 PR 動画のエンドロール後の特典映像としてその時の様子を動画のまま入れ込んでいます。我ながら Good job! でした。2 つ目は各支部ご当地 PR 動画を制作したことです。広島大会東京開催 PR 動画第 2 弾として、投稿締め切りまで 2 ヶ月を切ったところで急遽企画されたものでしたが、各支部迅速に動いて頂き思い思いのシチュエーションで動画を撮影して頂きました。実行委員会としても建設中のミルハスを背景に、これだけのためにナマハゲさんにも共演して頂き動画を撮影しました。不眠不休・飲まず食わずの編集作業でギリギリの投稿ではありましたが東京会場及びオンライン配信にて全国の会員へ向けて発信して頂きました。手作り感満載ではありますが、これも思い出として残していける作品が出来たものと思います。

その後は一息つきながらも会場行事委員会とは別に連合会青年委員として、本大会前日に開催される全国建築士フォーラム、本大会で開催される青年セッションの企画・準備も平行しての作業。アツと言う間に 2022 年の盆が過ぎ、土砂降りに見舞われた大曲の花火大会も終わり、その頃から本業が全く手に付かず、あきた大会のために時間を費やす日々となりました。

全てがギリギリの準備ではありましたが、関係者皆さんの多大なるご協力を得てなんとか間に合い、

私は全国建築士フォーラムがあるため前日の10/12から秋田市入りし、その日の内に連合会青年メンバーと合流しアルコールを摂取しながらのミーティング。

そしていよいよ大会当日。これ以上に無い晴天に恵まれ会場設営も順調に進み、昼頃には秋田駅に隣接するポポロードに設けられたフォーラムの受付に全国各地の建築士が続々と集結。駅周辺が建築士会全国大会一色となり一気に賑やかになりました。フォーラムは、秋田駅からミルハスまでのエリアでフィールドワークから始まり、秋田公立美術大学の小杉先生、東京藝術大学の藤村先生のお二方を文化創造館に迎え入れて、街づくりをテーマとした講演をして頂きました。そしてその日のメインイベントとなる全国青年建築士との懇親会。オプションとして夜の街（飲み）歩きと充実した一日目が終了。

〔トラブル1：その日は数名の参加者を乗せた羽田空港からの便が強風の影響で秋田空港に着陸できず、そのまま羽田空港へ引き返してしまうというプチトラブルが発生していました。〕

大会本番となる2日目は朝6時に宿泊していたホテルで起床。なぜか頭がクラクラしていましたが、身なりを整え会場となる文化創造館へ出発。会場で青年メンバーと合流し青年セッションの準備を急ピッチで進め、バタバタしながらも時間通りに青年セッションをスタート。このセッションは毎回全国各ブロック代表者（計7ブロック。今回東北ブロック代表は宮城県。）による地域実践活動の発表の場となっていて、最後にセッション参加者による投票が行われ各賞が決定します。また、その上位2名（最優秀賞、優秀賞）は式典の中で近角会長から直接表彰されるのが通例となっています。今回最優秀賞を受賞したのは愛媛県建築士会『建築巡礼 in まつやま』、優秀賞は北海道建築士会『パズルで住まいを考えよう!』となりました。

〔トラブル2：最優秀賞を受賞した発表者が、セッション終了直後に激しい腹痛で立ち上がることができないまま救急車で搬送されるという事態が起きました。ただ、その後の式典ではステージに上がり近角会長から直接表彰を受けています。原因はアニサキスだったようです。何を食べたのでしょうか…。〕

そんなこんなで大会も大きなトラブルなく終えることができ、瞬く間の時間であった3日間。本大会への参加者は2700名程となりコロナに振り回されている中でこの数値は嬉しい悲鳴となりました。そして何よりも沢山の方に秋田を楽しんでもらえたことがとても嬉しく思います。参加者の方からは「秋田凄かった。ありがとう!」「楽しかったよ!秋田。」「静岡大会の開催に向けてプレッシャーしかない。頑張ったね。」等の嬉しい言葉を沢山頂戴し、埼玉大会より足掛け4年…これまでの苦勞が報われた瞬間でもありました。もし一つ願いが叶うなら、あきた大会に一般参加者として参加し楽しんでみたいという思いがあります。

秋田県では41年振りの開催であり、関わりたいと思っても減多とないタイミングであるため、このような立場を頂いて関わられたことは奇跡であり、大変光栄でもあります。私自身にとってもレベルアップに繋がる良い経験をさせて頂きました。次回もまた40年後の開催と考えると私は既に…。今後はこの経験を未来を担う次世代建築士へ余すことなく伝えていくことが私の役割と考えています。そしてそれが大会のテーマであった「郷土のこれから」にも繋がることだと思っています。

このコロナ禍の中、本大会の開催においてご理解・ご協力頂いた関係者の皆様、参加して頂いた皆様に心より感謝申し上げます。

次はR5年10月27日の静岡大会。皆で今回のお礼を改めて言いに行きましょう!!



連合会青年委員会メンバー

あきた大会で心ひとつに、この感動を次世代へ！

あきた大会実行委員会副委員長（女性委員長） 松 橋 雅 子

全国大会あきた大会を終えて2ヶ月が経ちました。終了直後は仕事の忙しさに気が紛れていたものの、毎日のメール整理をするたびに大会関連メールが届かないことで「ああ、終わったんだなあ…。」と何か物足りなさからか、あきた大会ロスの毎日でした。

思い起こせば開催までの約4年間、会場行事委員会メンバーとして「大会テーマ、ポスター・ノベルティグッズ等デザイン、PR 動画作成」を担ってきたほか、ことあるごとに大会PRに努めてきました。図らずも2020年1月には世界中で新型コロナウイルス感染が拡大し、広島大会が1年延期となり更には緊急事態宣言で思うように集まらない中でオンライン機能「Zoom」を導入すべく、女性委員会メンバーもはじめは不安を抱きつつ青年委員会メンバーのサポートによって、今では女性委員会だけでもオンライン会議を開催できるまでになりました。加えてLINEグループによる連絡・報告が密にできるようになるなど、私たちは新たな重要アイテムを駆使できるようになり、今後の活動範囲拡大が期待できます。またこの準備期間の取り組みは、私たち会員の意識を磨くとともに「みんなと繋がっている」という実感を得られた充実した期間で大きな収穫となりました。

大会初日朝のシュプレヒコールで一気に盛り上がり、初めての「ミルハス」施設内で勝手がわからず右往左往したものの、それぞれの役割を果たすべく必死に走り回っている中で、すれ違う会員スタッフがみんな笑顔だったこと、サブ会場や交流会会場等の移動中や街角で誘導しているスタッフの後ろ姿もなんだか楽しそうで、私自身疲れは感じていましたが、気分は最高！3日間本当に楽しかったです。

特に、3日目のエクスカッションでは朝方若干雨が降り、Bコースの森吉山空中散歩に暗雲が垂れ込めましたが、地元山岳会やNPO 森吉山の関係者のサポートで霧に包まれた紅葉を眺め、採れたて「なめこ汁」の振る舞いに参加者も大満足の様子。午後からは霧も晴れ、秋田内陸縦貫鉄道の旅はマタギと「ごっつお」、そして地酒で大いに盛り上がり、参加者、地域住民と会員みんなが終始笑顔で、阿仁合駅での記念写真は最高でした。

今でも時々参加された皆さんから、「あきた大会、最高！」「秋田県の皆さんの団結力、素晴らしい！」と喜び・感動のメッセージを頂いており、改めて大会に参加協力して下さった関係者のみなさんの尽力に感謝します。

最後に、この大会を経て最も心に残ったことは、先輩たちの感動している姿でした。そして、これほど大きな大会をみんなで創造し盛り上げ、そして成功できた達成感と感動は一生忘れられない思い出となりました。この感動体験を地域活動に生かし、持続可能な地域づくりのために、今こそ地域の若い建築士、そして建築士を目指す子供たちに、「建築士」の役割・存在をアピールし、仲間を増やしていきたいと思います。



連合会女性委員会メンバー

大会を終えて

あきた大会実行委員会運営調整委員会（鹿角建築士会会長） 中 西 純 悦

大会を終えて今はほっとしているというのが本当で、私がそう思っている以上に事務局や担当責任者は大変な思いと難儀したと思います。

感謝と労いの言葉しか浮かびません。本当にご苦労様でした。

全国より多数の建築士が「集い・語らい」何か前に進めるきっかけとなったあきた大会であったのなら1スタッフとして喜ばしい限りです。

今回 鹿角建築士会の会長となって初めての大きなイベントで地域会のメンバーを結集していく難しさを改めて感じましたが、会員の理解と協力により無事遂行できたのが何よりです。会員の減少で活動もままならなくなってきた昨今良い機会になったと思います。

大会各セッション、式典等をスタッフとして支えた我々が見学。参加できる時間がなかったのが残念です。

なかなか全国大会に行けない会員が地元開催の時ぐらい全国大会の参加し雰囲気を感じ、語らう時間が欲しいものです。

毎回主催建築士会はそういう思いをしているのではないだろうか。

今後、全国各建築士会が何十年後かに回ってくる全国大会を開催県の会員が各セッション等参加出来ることを模索して欲しいものです。

◆10月13日(木)◆



記者会見



理事会・士会長会議



HMまち歩き



HM総会



建築士フォーラムまち歩き



建築士フォーラム



歓迎レセプション



歓迎レセプション余興

大会回想

あきた大会実行委員会運営調整委員会（能代山本建築士会会長） 大 高 勇

新年あけましておめでとうございます。県士会ニュース編集部にとっても昨年の今頃とは違い、安堵感、充実感に満たされた新年のことと思います。今日、この寄稿文を書いているのは12月13日。あの全国大会からちょうど2ヶ月経過した日です。私的な裏情報も交え、つたない記憶を辿って初日から回想してみました。

私が責任者の誘導部門では、初日の13日は主会場ミルハスでの物品移動、受付設営が主な仕事でした。事前に植田事務局長から打合せを受けてからスタッフ全員集合。メール等で皆さんと情報交換はしていますが、顔合わせの機会も無いままで当日、名札を見ながらの対応でしたが、男性だけのこの力仕事はいざ動き出すと早く、後半は次の指示があるまで手が空く時間もありました。エントランス中央では袋詰め作業の皆さんが、パンフレットの過不足とかでトラブルになってはいたものの、下手に手出し出来ず、私共はジャンパー内で蒸された汗を乾かしながら、なまはげダリアが配達されるまで一段落していました。午後遅くにダリアとそのポスターが到着し、こちらの設置は簡単に完了～。と、休んでいたところに当部門でもトラブルが発生。ミルハスの職員さんが来て、元々展示していたエントランスの写真パネルは片づけてはいけないものとの事。慌ててブースに使用していた衝立の裏を搜索、写真が飾られていないかチェックが始まり、一度貼ったポスターの剥がし、衝立交換作業と復旧に追われました。少ない人数ながらも無事完了し、この日二度目の発汗。夕食時のビールが美味しくいただけました。

大会メインの2日目、ようやくインカムの使い方に慣れた私は3会場をフルに移動していました。ミルハスでの誘導部門は人数が足りていたようなので、キャッスルホテルに向かいセッション会場を視察。自分が地域リーダーを担っている「木のまちづくり」セッションの会場で部会長や、来県して頂いている委員に挨拶し終え、中盤まで聴講しておりました。途中、発表者側からPC接続の件で関係者を呼んで欲しいとの事で、当初居た筈のセッティングの方を探し回りましたが同じ階では見つからず、慣れたばかりのインカムも遠距離で聞き取れず、結局は植田局長の携帯に直電で指示を受けて対応できました。この日はこちらで唯一の冷や汗。ほっとして外に出ると、にぎわい広場には既に屋台が立ち並び竿灯の準備もこれからというところ。うれしい事に能代の見覚えのある屋台を二軒発見、オヤシロコーヒー屋さんは私の趣味仲間で、白神ねぎラーメンは同級生でした。そして更に、ミルハスの玄関で来場者を出迎えてくれていたお二人のあきた観光レディ、その傍らに居た付添いの女性は、私の近所出身で娘の同級生という偶然にも遭遇し、記念に写真を撮りつつ、しばし昔話に花が咲きました。2日目の誘導部門の皆さんはエスカレーターの上下に位置して、交代しながらスタッフ心得どおり対応しておりました。大交流会前の時間帯も汗して会場復旧作業を迅速にこなしておりましたが、徐々に散会して行ったようです。夜7時過ぎ頃、まだ数名は残って居りましたが、責任者として一堂に感謝の言葉をかける時間も無く誠に申し訳ございません。この紙面を借りて厚くお礼申し上げます。

最終日の15日、30名参加のエクスカッションのバスに同乗した私は、初めに行く先のパンフ配布と説明を兼ねて挨拶するつもりでしたが、バスガイドさんが素晴らしく饒舌で（当たり前か）笑い話も交え、秋田市内を出るころには全行程の説明を終えていました。という事で、自分はまた同じことを簡単に要約して、スケジュール調整が必要な場合、きみまち阪公園散策を省略する点のみ伝えて終わりました。あとは行く先々で時間との勝負でしたので何だか落ち着かないまま終わったような気がします。ただ、秋田駅に向かう帰りのバスで、締め挨拶をさせていただいた折に頂戴した大きな拍手を今でも忘れる事ができません。本当に良い経験をさせて頂いたと思っております。そして駅で到着を待っていてくださった事務局の植田さん、伊藤さん、お二人が大会を成功に導いたものと確信しております。本当にお疲れさまでした。

◆10月14日(金)◆



青年委員会セッション



女性委員会セッション



福祉まちづくりセッション



防災まちづくりセッション



歴史まちづくりセッション



木の建築賞



環境部会セッション



木のまちづくりセッション



情報部会セッション



ミルハス前



受付



一般受付



記念対談



秋田セッション見学



進行 相場詩織アナ



大会式典 なまはげ登場



オープニング なまはげ太鼓



大会式典



大会式典 ご来賓



大会式典 主催者



開催地挨拶 淡路会長

大会を終えて

あきた大会実行委員会運営調整委員会（由利建築士会会長） 高橋 幸治

地域会としてあきた大会の開催に際し、最も懸念されたのが担当人員の確保でした。地域会行事等は通常半日程度の時間拘束でしたので特段問題はありませんでしたが、今回は2日間、最終日のエクスカージョン担当者は最大3日間の拘束ということでした。平日は仕事を持っている方々ですから、どこまで協力いただけるかが懸念されるどころでした。2年程前から会議や行事等の度に、動員予定の重要性を説明してきたところでありました。いよいよ大会概要が判明し、当地域会の負担人員について見えてきたところで、さっそく協力要請となりました。危惧に反して会員の皆さんから協力の同意を受けることができ安堵いたしましたところでした。いざ当日に不足事態で協力できない方が出ること考えられましたが、一人二人ならピンチヒッターも有りと頭の中に置いておりました。

次の課題は担当部署の任務の把握となりましたが、他県開催の大会に参加した経験のある会員は決して多くはありませんでした。大会開催も迫る中、タイムスケジュールや担当任務のマニュアルが整い、担当者の配置を決めたところで説明会を開きました。各任務内容の説明をいたしました。細部までの説明は決して充分とは言えなかったと思います。最後には「とにかく寝坊せず時間までにミルハスに集合してください。後は担当責任者の当日の指示に従ってください。」で締めました。

終わってみれば特段トラブルも無く、皆さん任務を全うすることができたようでした。今回は大会の雰囲気も感じてもらえたと思っておりますが、全員裏方としての参加でありまして、ほんの一部しか知ることができなかった方もいたかと思えます。最後に大会の様子のスナップ写真をいただきましたので、それをCD版にして全員に配布させていただきました。

最終日のエクスカージョンについては、各施設の概要を参加者に説明する資料の作成に腐心いたしました。いかに地元の施設に対して不勉強であったか明らかになりましたが、資料作成作業については以外に楽しいものでありました。各施設の説明の他に周辺にはすてきな観光資源もあることも載せてみました。当日はあいにくのくもり空で鳥海山の雄姿を観ることができず残念でありました。景勝地九十九島の成り立ちに関わりがありガイドしようと準備していたのですが、参加者からは随行車両2台について親切な対応であるとお褒めの言葉をいただきました。帰りの車中ではバスガイドさんと共に秋田弁の解説となりました。秋田ではかわいいものには何でも「こ」がつく。

「べごこ、ねごこ、いぬこ、ほぼこ……」。非常に短い単語で会話が成立すること等。

「どさ、ゆさ、ほう」。他県からの参加者からは「ほう？」でありました。



国歌斉唱



主催者挨拶 近角連合会会長



来賓祝辞 国土交通省 宿本課長様



表彰式 連合会会長表彰



大会アピール



大会旗引継



次年度開催地挨拶



大交流会 場内

あきた大会を終えて

あきた大会運営調整委員会（湯沢雄勝建築士会） 佐藤 隆 志

10月14日、秋田市は雲一つない晴天。千秋公園の木々も一日ごと紅色を付け、まさに大会を祝福しているようです。

朝8：30に集合し、淡路会長の掛け声で作業開始です。ミルハス・文化創造館に入り、昨日からの準備作業。（出店展示部門と飲食コーナー部門担当です。）昨日のうちに展示部門は作業をほぼ終えていたので今日は飲食コーナーがメインです。

既に全国の参加者が来ています。焦った私は少しでも早く文化創造館を開けてもらえるようお願いしましたが、文化創造館は何回お願いしても予定時刻9：00時ならないと開けてくれません。くっそー。とても意地悪された気分では苛立ちました。ダメだ。笑顔、笑顔と心の中でつぶやき、パッと周りのスタッフの顔を見ました。そうしたらみんなの笑顔がパーっと目に入り、その明るさですーと心が穏やかになりました。天気もいいし、お祭り気分だし、どうせやるなら楽しんだほうがいいに決まっています。その後、『もっきりコーナー』にはどんどんお客様が来店し、秋田の自慢の地酒は飛ぶように売れました。まさに大盛況です。

私が5年前、湯沢雄勝の会長として県の理事になった時から、4年後に全国大会あきた大会が開催されると言われてきました。コロナの影響により1年延びましたが、こうして無事『あきた大会』大成功の姿を見ることが出来て大変嬉しいです。これも淡路会長率いる秋田県建築士会のメンバー皆さんのおかげです。心より感謝しています。

街に出るとオレンジ色のジャンパーから「お疲れ様ーです！」と声がかかります。また、自然に私からも「お疲れ様でーす！」と。

3日目のエクスカッションを終え秋田駅前に戻りました。日も暮れそうで、あたりはオレンジ色の夕焼けでした。一番難儀をして疲れているであろう植田さんと伊藤さんが出迎えてくれました。ほっとしたのと同時にその責任感の強さに感動さえ覚えました。あーなるほど。『おもてなし』とはこういうことなんだ。

微力ではありましたが、皆さんとこの大会に参加することが出来て本当に良かったです。ありがとうございました。



大交流会 乾杯



大交流会 歓談



大交流会 場内



大交流会 場外



しずおかPR



もっきりコーナー



西馬音内踊り



西馬音内盆踊り



大交流会 見送り



大交流会 見送り



企業展示



企業展示



昼竿灯



昼竿灯



企業展示



ふれあい竿灯



夜竿灯



あきた犬とふれあい



ミルハス前



ミルハス前



ミルハス前 写真スポット



はちくん、なまはげ



たんぼ小町、秋田観光レディ



写真スポット



飲食コーナー 市文化創造館



もっきりコーナー



もっきりコーナー



パバヘラアイス



飲食コーナー にぎわい広場

会務報告

会務報告

(令和4年8月～令和4年12月)

- 8月2日(金) 令和4年度第1回事業委員会 於：パーティーギャラリー イヤタカ
- 8月23日(火) 令和4年二級建築士学科試験合格発表 合格者28名
- 9月1日(木) 秋田県木材利用促進委員会 淡路会長 出席 於：秋田地方総合庁舎6階
- 9月3日(土) 一般社団法人 北海道建築士会 創立70周年 第44回全道大会(空知大会) 淡路会長 出席 於：岩見沢市民会館
- 9月3日(土) 令和4年度第2回東北ブロック会女性委員会委員長会議(WEB会議) 松橋委員長 出席
- 9月7日(水) 令和4年度第1回東北ブロック会「まちづくり委員会」(WEB併用) 於：秋田市にぎわい交流館AU 4階
- 9月11日(日) 令和4年二級建築士設計製図試験 実施 受験者数58名 於：秋田JAビル
- 9月14日(水) 令和4年度第2回 理事会 於：パーティーギャラリー イヤタカ
- 10月4日(火) 佐竹のりひさ(県知事) フォーラム 田仲副会長 出席 於：秋田キャッスルホテル
- 10月7日(金) 公益財団法人 秋田県木材加工推進機構 創立30周年 記念式典 淡路会長 出席 於：プラザ都
- 10月9日(日) 令和4年一級建築士設計製図試験実施 受験者数32名 於：秋田JAビル
- 10月13日～10月15日 第64回建築士会全国大会あきた大会 於：あきた芸術劇場ミルハス他
- 10月21日(金) 第36回秋田の住宅コンクール審査会 草薙青年委員長 出席 於：ANAクラウンプラザホテル秋田
- 10月27日(木) 一級・二級・木造建築士定期講習会 受講者36名 於：北秋田市交流センター
- 11月5日(土) 一般社団法人 山形県建築士会 青年大会 草薙青年委員長 出席
- 11月23日(水) 「第36回秋田の住宅コンクール」の表彰状授与 淡路会長 出席 於：秋田市にぎわい交流館AU 展示ホール
- 11月24日(金) (仮) 建築士登録に関する意見交換会 植田事務局長 出席 於：宮城県建設業国民健康保険組合 6階 会議室
- 11月25日(金) 一般社団法人 秋田県解体工事業協会 創立30周年記念式典 淡路会長 出席 於：ANAクラウンプラザホテル秋田
- 11月30日(水) 一級・二級・木造建築士定期講習会 受講者86名 於：大仙市大曲交流センター
- 12月1日(木) 令和4年二級建築士設計製図試験合格発表 合格者29名
- 12月2日(金) 令和4年度上期監査 於：アキタパークホテル
- 12月7日(水) 令和4年度 木造利用提案コンクールの表彰式及び特別講演会(秋田県木材加工推進機構) 淡路会長 出席 於：秋田市JAビル
- 12月12日(月) 東北ブロック会 令和4年度第2回会長会議 淡路会長、植田局長、伊藤次長 出席 於：秋田キャッスルホテル
- 12月16日(金) 令和4年度第3回 理事会 於：パーティーギャラリー イヤタカ
- 12月22日(木) 秋田県建設技能組合連合会 令和4年度 合同懇親会 淡路会長 出席 於：ホテルメトロポリタン秋田

令和4年8月～令和4年12月

地域会だより

○鹿角建築士会

令和4年

8月22日 第1回 全国大会実行委員会
(於 事務局)

1. 本部の進捗状況について
2. 役割分担及び未確定事項の確認
3. エクスカージョンの担当者について
4. その他

9月16日 第2回 全国大会実行委員会
(於 事務局)

1. 本部理事会での関連事項報告
2. 担当業務及び人員配置の確認
3. 交通手段について
4. その他

10月13日～16日

第64回建築士会全国大会あきた大会
参加（運営スタッフ延べ25名、一般参加：2名）

11月22日 第1回 鹿角市空き家等対策協議会（中西会長出席）

特定空き家等の認定及び対策について

11月25日 全国大会慰労会（於 ホテル茅茹荘）

○大館・北秋田建築士会

令和4年

8月4日 第3回大館歴史的建造物研究会
(於 中央公民館 出席6名)

1. JR東大館駅の保存活用について
2. 地域別歴史的建造物調査について

8月26日 第4回大館歴史的建造物研究会
(於 中央公民館 出席9名)

・地域別歴史的建造物調査について
写真・コメントについて協議（A・D班）

9月16日 第5回大館歴史的建造物研究会
(於 中央公民館 出席8名)

・地域別歴史的建造物調査について
写真・コメントについて協議（B・C班）

9月18日 大館市文化財保護協会主催 第2回公開研修会（於 中央公民館 出席2名）
安達真由美氏が講演

「ヘリテージマネージャーと

桜櫓館耐震改修工事について」

9月27日 あきた大会スタッフ説明会
(於 北地区CS 参加21名)

10月13日～15日

第64回建築士会全国大会あきた大会
参加（運営スタッフ延べ37名）

10月28日 旧小坂鉱山工作課鑄造仕上場の解体に係る記録保存調査協力
小坂町教育委員会よりの協力要請（参加3名）

10月29日 あきた大会ご苦労さん会（於 プラザ杉の子 参加16名）

11月18日 大館市長走風穴調査
大館市より調査依頼（参加6名）

11月24日 第6回大館歴史的建造物研究会
(於 中央公民館 出席6名)

1. 地域別歴史的建造物調査報告について
2. HMスキルアップ講座について
3. その他今後の事業について

○能代山本建築士会

令和4年

9月24日～25日

秋の有志ゴルフコンペ

24日 青森ロイヤルゴルフクラブ 10名参加

25日 津軽高原ゴルフ場 12名参加

10月13日～15日

第64回建築士会全国大会あきた大会

参加（運営スタッフ延べ27名）
12月8日 令和4年度第2回役員会 18:00 6
名参加
役員会懇親会及び全国大会スタッフ慰
労会 18:30 7名参加
（於 肴の市場「満月」）

○秋田中央建築士会

令和4年

10月13日～15日
第64回建築士会全国大会あきた大会
参加（運営スタッフ：延べ132名参加）
11月11日 全国大会あきた大会スタッフ慰労会
（於 PGイヤタカ）
（中央士会スタッフ77名中42名参加）



秋田中央大会慰労会

○由利建築士会

令和4年

10月13日～15日
第64回建築士会全国大会あきた大会
参加（運営スタッフ延べ29名参加）

○仙北建築士会

令和4年

8月1日 理事会 臨時常任理事会（於 事務局）
1. あきた大会のスタッフ割り当てに
ついて
2. あきた大会のエクスカーションに
ついて
9月13日 会議 あきた大会スタッフ打合せ
（於 はなび・アム）

1. あきた大会のスタッフ割り当てに
ついて

10月13日～15日

第64回建築士会全国大会あきた大会
参加（運営スタッフ延べ60名）

12月2日 理事会 第2回常任理事会・理事会
（於 はなび・アム）

1. 講習会及び新年会について
2. ペアール住宅講座について
3. 令和5年度空き家無料相談会につ
いて
4. 建築士会ニュース発行について
5. 会費納入状況について
6. その他

○横手建築士会

令和4年

9月21日 第2回理事会 14:00～16:00

（於 サンサン横手）

1. 会務報告
（県本部）
・令和4年9月14日 第2回理事会
①各委員会の事業計画について
②第64回全国大会・あきた大会（10
月14日）について
・進捗状況、スタッフへの対応
・タイムスケジュール
2. 議題
①第64回全国大会・あきた大会につ
いて
・10月13日、14日、15日のスケ
ジュール
②あきた大会横手建築士会スタッフ
について
・スタッフ人員配置
③横手建築士会大会経費
・横手建築士会大会スタッフ日当
について

10月13日～14日

第64回建築士会全国大会あきた大会
参加（運営スタッフ延べ57名）

10月15日 第64回全国大会・あきた大会 エクス
カーションスタッフ参加

10月28日 第64回全国大会・あきた大会 慰労会
(於 よこてシャイニーパレス)
参加者 23名



○湯沢雄勝建築士会

令和4年

8月29日 「あきた大会」スタッフ会議 (於 湯
沢市役所 18:00~19:30)
出席者 8名

10月6日 「あきた大会」スタッフ会議 (於 湯
沢市役所 18:00~19:30)
出席者 12名

10月13日~14日

第64回建築士会全国大会あきた大会
参加 (運営スタッフ延べ24名)

10月15日 第64回建築士会全国大会「あきた大会」
エクスカーショ
ン
『Hコース：白井晟一 秋田時代を探る』
69名
スタッフ参加者 13名



10月21日 「あきた大会」慰労会 (於 浜銀
18:00~) 出席者 15名

10月22・23日

「白井晟一パネル展」(於 四同舎
13:00~17:00)

リビングラボ主催共同企画

スタッフ参加者 3名

11月19日 湯沢市「湯沢の歴史再発見 建物探訪」
(9:00~13:00)
顧空庵・四同舎・琅玕席・山内家住宅
スタッフ参加者 6名



10.21 慰労会



11.19 建物探訪

日建のここがすごい
POINT 5

合格実績

受講生ファーストの
日建学院

POINT 01

平成元年から令和3年の1級建築士合格実績
この33年間に誕生した
1級建築士の半数以上が
日建学院の受講生です!

1級建築士合格実績
No.1

日建学院 平成元年～令和3年の合格実績

1級建築士 (全国約165,868人*)

93,110人

当学院の1級建築士
合格率占有率 **56.1%**

この33年間に誕生した1級建築士の
半数以上が日建学院の受講生です!

*上記数字は国土交通省建築士試験センター公表実績(1989～2021年)です。

POINT 02

おかげさまで10冠達成!
外部調査機関調べ



総合満足度
顧客満足度 **No.1**

- ※ リピート満足度
- ※ 費用対効果の満足度
- ※ カリキュラム充実度
- ※ 資格の満足度
- ※ 設備・体制・学習環境の充実度
- ※ 講師の対応サポート力
- ※ 提出者の最適化コース提案力
- ※ 受験対策の満足度

日本マーケティングリサーチ機構 調査期間:2021年9月期、顧客満足度調査

POINT 03

私も日建学院で1級建築士を
取得しました!



代表取締役 馬場 栄一

だからこそできる
受講生ファースト!
コンプライアンスを重視し、
徹底的にサポート!

1992年 3月 早稲田大学理工学部建築学科卒業
1993年 3月 大成建設株式会社入社
※在学中に1級建築士/
1級建築施工管理士
取得(日建学院 進学)

POINT 04

大学生の1級建築士合格者の
多くが日建学院生です!

福井工業大学	70.00%	大分大学	66.67%
日本女子大学	62.50%	金沢工業大学	60.00%
日本工業大学	58.33%	愛知産業大学	55.55%
東京工業大学	55.17%	東京大学	54.55%
愛知工業大学	53.85%	大阪市立大学	51.11%
大阪大学	50.00%	早稲田大学	46.83%

※上記数値に専科の合格提供者及び、補修試験だけの受講生は含まれておりません。
※2022年1月13日時点での日建学院ホームページによる調査結果です。

POINT 05

建築士法改正後、1級建築士
全国最年少合格者(20歳)も
日建学院から輩出しました!



最短
ストレート
合格者続々!

1級建築士合格者(20歳) 金子 千尋

1級建築士合格者(20歳) 坂田 直樹

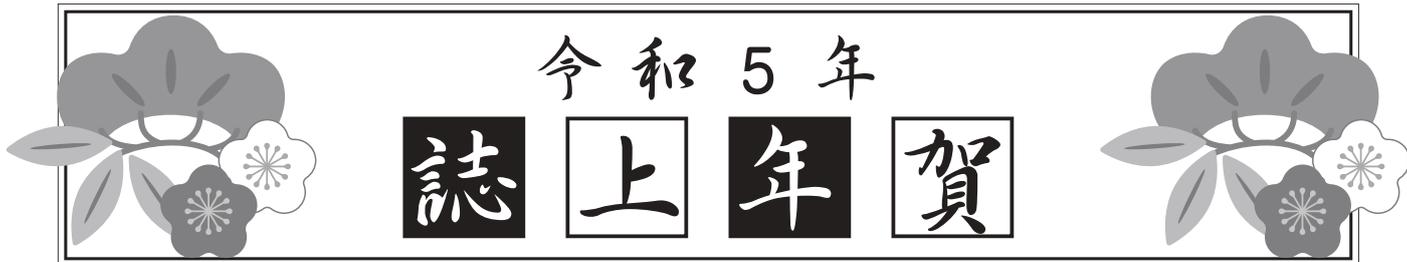
あなたの夢、応援します。

日建学院

資料請求・各種お問い合わせは下記までお気軽にどうぞ!

秋田校 TEL.018-801-7070

〒010-0001 秋田県秋田市中通6-7-9 秋田県畜産会館2F



2023

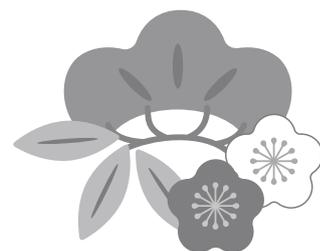
新春を迎え平素のご厚情
を深謝し、皆様のご健康
とご多幸をお祈り申し上
げます。



一般社団法人 秋田県建築士会

〒010-0001
秋田市中通2-3-8アトリオン5階
(一財)秋田県建築住宅センター内
TEL 018-827-3718
FAX 018-827-3873

会 長	淡 路 孝 次	理 事	小 原 正 明
副 会 長	石 川 成 美	櫻 庭 星 治	木 和 美
	田 仲 雅 美	正 木 和 美	泰 正 実
	照 井 郁 人	湊 石 博 一	樹 臣 涉
専務理事	小田島 誠	鈴 山 工 藤	博 一 喜
常務理事	大 高 勇 治	山 脇 藤 雅	一 雅 子
	高 橋 幸 治	工 藤 博 一	道 留 美 子
	佐 藤 隆 志	草 加 藤 一	川 道 留 美 子
理 事	中 西 純 悦	松 橋 雅 道	留 美 子
	戸 館 康 博	清 水 川 藤	谷 昭 一
	鳥 潟 宏 一	齊 泉 谷	根 知 宏
	櫻 庭 川 孝 則		



謹賀新年

令和5年元旦

鹿角建築士会

住所 〒018-5201 鹿角市花輪字下夕町212-12 阿部設計内
TEL 0186-23-7211 FAX 0186-23-7212

顧問
相談 会長
会副 事務理事
専務 理事
会計 理事
監事

阿大中神児金戸阿石安岩
部森西田玉沢館部川保根
秀昇純幸安
一治悦憲広拓博朗晴尊務
志悦忠

和田典寛
石川典男
高屋廣美
金嶋石柳
澤山田沢
宏泰まり子
樹三子
富美男

小児 館玉 正正 光彦 黒木 澤村 金 賢光

謹賀新年

令和5年元旦

〒018-5334 秋田県鹿角市十和田毛馬内字森崎17-1



有限会社
十和田板金工業所
十和田建築設計事務所

代表取締役 柳 沢 富美男

TEL (0186)30-3500 FAX (0186)30-3600

謹賀新年

令和5年元旦

設計・監理



中西建築設計事務所

主宰 中西純悦

秋田県鹿角市花輪字柴切田15-3
PHONE 0186-22-1400
FAX 0186-22-4025

謹賀新年

令和5年元旦

設計・監理 一級建築士事務所



代表 阿部秀一
管理建築士 児玉安広

〒018-5201
秋田県鹿角市花輪字下夕町212-12
TEL 0186-23-7211
FAX 0186-23-7212

謹賀新年

令和5年元旦



設計・監理 松谷建築設計
代表 戸館康博

鹿角市八幡平字松館60-1
TEL・FAX : 0186-30-5240



謹賀新年

令和5年元旦

大館・北秋田建築士会

住 所 〒017-0046 大館市清水一丁目5-4 (有)石川建築内
T E L 0186-59-6665 F A X 0186-42-1943

顧問 相談 会副 専務 常理	問役 長 副理 事	福松石 嶋鳥 小奈 熊坂 信濃	原岡川 山潟 林田 谷本 屋	淳 富美 宏一 勝昌 寿豊	嗣裕 成男 一男 正剛 克久	津田 小笠 原	谷中 藤部 達川 平	永寿 留美 子徹 由美 明雄	光一 寿	金石 三	松高 石	沢田 浦	橋田 垣	克起 英	雅敏 孝	己徳 人	子雄 浩	島石 三安	山山 浦部	光清 直	由武 司樹	加賀 武北	谷石 村	時大 公	代智 晴
----------------------------	--------------------	-----------------------------	----------------------------	---------------------------	----------------------------	---------------	---------------------	----------------------------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	----------	----------	---------	----------	----------	---------	---------	---------

謹賀新年

令和5年元旦

いつもそばに 地域と共に ... 未来へ



株式会社吉田産業

取締役支店長 松澤清美

■大館支店 〒017-0878 大館市川口字上野85-1
TEL 0186-43-2233 FAX 0186-43-2232
■能代営業所 〒016-0884 能代市卸町2-7
TEL 0185-54-2602 FAX 0185-54-8458

謹賀新年

令和5年元旦

床材の決定版 環境にやさしい天然素材

床材・壁材・階段材・カウンター (JAS認定工場)

藤島木材工業株式会社
藤島林産株式会社

☎018-3301 北秋田市綴子字田中下モ31
T E L 0186(62)0390~1
F A X 0186(62)0392

謹賀新年

令和5年元旦



おかげさまで会社設立140年
建設から暮らしまで

カクヒロ

株式会社角弘大館支店

☎017-0044 大館市御成町一丁目16番10号
TEL0186-42-3041 FAX0186-49-0985
URL <http://www.kakuhiro.co.jp/>

謹賀新年

令和5年元旦

人のそばに、夢のそばに。
山二建設資材株式会社
大館営業所

〒017-0838
秋田県大館市山館字八幡下150
TEL 0186(42)7521
FAX 0186(42)7520
URL <http://www.yamani-ks.co.jp/>

謹賀新年

令和5年元旦

屋根・壁・太陽光発電…創エネで未来をリード



株式会社セキノ興産
大館店

〒017-0836
秋田県大館市池内字中台300
TEL (0186) 42-7611
FAX (0186) 42-7613

謹賀新年

令和5年元旦

工事は地元の信頼できる
工務店にお任せ

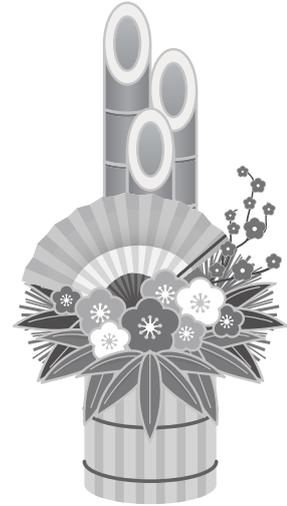
〈住まいづくりに奉仕する〉



三浦木材株式会社

代表取締役 三浦 功 達

〒017-0031 大館市上代野字上代野5-1
TEL 0186-48-5811
FAX 0186-48-5814



謹賀新年

令和5年元旦

能代山本建築士会

住 所 〒016-0845 能代市通町1-16 サクラバ設計内
TEL 0185-53-5667 FAX 0185-74-6020

顧 相 会 副 理	問 談 会	役 長 事	中 松 大 櫻 西 佐 相 加	田 谷 高 庭 方 藤 原 藤	福 里 友 一	潤 三 勇 徹 見 一 次 郎 喜	熊 谷 勝	佐 々 木 政 幸 長 門 雅 喜 田 村 代 宣 藤 田 徹 剛	永 井 儀 博 一	井 井 浩	幸 池	坂 田	誠 佐 保
-----------------------	-------------	-------------	--------------------------------------	--------------------------------------	------------------	---	-------------	---	-----------------------	-------------	--------	--------	-------------

謹賀新年

令和5年元旦



KAN ARCHITECTS & ENGINEERS

設計集団 **環** 協同組合

代表理事 佐藤 友一

〒016-0811 秋田県能代市日吉町20-25
TEL0185-55-0022・FAX0185-55-0023

謹賀新年

令和5年元旦

ISO9001認証取得



中田建設株式会社

代表取締役社長 中 田 潤

本 社 〒010-0951 秋田市山王五丁目9番2号
TEL018(864)3211(代) FAX018(864)3216
能代本店 〒016-0804 能代市万町4番29号
TEL0185(54)3911(代) FAX0185(55)0226

謹賀新年

令和5年元旦

建築工事・不動産

熊谷建設株式会社

〒016-0015
秋田県能代市須田字屋布添76番地1
TEL0185-54-4600
FAX0185-54-4107

謹賀新年

令和5年元旦

国産物の中性化・有害成分から予防保全まで

リフリート工法

調査・検査・診断から施工まで一貫して
リフリート工法

秋田県リフリート工法施工技術協会

事務局 秋田県秋田市大森町1-10 TEL. 018-852-5031

秋田県リフリート工法施工技術協会

<会 員 名 簿>

会社名	電話番号	会社名	電話番号
株式会社加賀昭塗装	018-845-1247	株式会社フジベン	018-866-2235
株式会社黒澤塗装工業	018-835-1084	有限会社藤義塗装	018-834-9064
栄塗装有限会社	018-847-2901	丸谷塗装工業株式会社	018-823-8581
三建塗装株式会社	018-862-5484	株式会社三國	018-884-6888
株式会社タカベン	018-823-1373	有限会社環清工業	0183-72-0038
株式会社ナカセン	0187-56-2262	有限会社久保上左官工業	0183-73-4140
有限会社美工会塗装工業	018-816-0145	株式会社アル シーテック	018-853-1609
平野塗装工業株式会社	018-863-8555		

上掲の工法は、劣化した塗膜を除去し、基材を保護し、新たな塗膜を形成する工法です。

謹賀新年

令和5年元旦

(一社)日本塗装工業会会員 (一社)日本橋梁・鋼構造物塗装技術協会会員
外壁改修工法リフリート工業会会員 NETIS登録番号 KTK 15007-A

三建塗装株式会社

代表取締役 飛鳥 淳

本 社 秋田県外田町字中野新地
TEL 018-852-5180
FAX 018-852-5564
URL: <http://www.sanken.paint.com>

大田支店 大田市戸地谷字川前359番地
TEL 0187-683-8035
FAX 0187-683-8086

謹賀新年

令和5年元旦



総合建設業 / 一級建築士事務所

株式会社 長谷駒組

代表取締役 長谷川 尚彦

〒019-0611 秋田県大館市大館1-10

TEL 018-834-5110 FAX 018-834-5437

謹賀新年

令和5年元旦

代表取締役 足利 健



総合建設業
株式会社 足利工務店

〒019-2601

秋田市河辺和田字岡村239

電話 / 018-882-2059 ・ ファックス / 882-2153

仙台営業所

仙台市宮城野区鶴巻2丁目3-43

TEL.022-781-6301 FAX.022-781-6302

謹賀新年

令和5年元旦

一般社団法人 秋田県空調衛生工事業協会

会長 阿部公雄
副会長 間淵利夫
副会長 佐藤裕之
副会長 遠田博士

秋田市山王臨海町3-18 TEL (018) 824-7761

謹賀新年

令和5年元旦

設計・監理 一級建築士事務所
株式会社 クリエイテブライフ



代表取締役 淡路 孝次

〒010-0802 秋田市外旭川字三後田266-2
TEL 018-868-5352 FAX 018-868-5348
E-mail creativelife@iaa.itkeeper.ne.jp

謹賀新年

令和5年元旦

一級建築士事務所
有限会社 村田弘建築設計事務所

代表取締役社長 村田良太

■本社
〒010-0971 秋田市八橋三和町18番15号
TEL 018-823-4345(代)
FAX 018-823-4328
<https://www.mrt-arch.co.jp/>

謹賀新年

令和5年元旦



秋田県建設業協会
！下巻建設部・設計・専任

山二建設工業株式会社

代表取締役 阿部 公雄

〒010-0971 秋田市八橋三和町18番15号
TEL 018-823-4345(代)
FAX 018-823-4328
<https://www.mrt-arch.co.jp/>

謹賀新年

令和5年元旦



近代立平直屋根
5&W工法

通気層と一体型の水密性に優れた屋根工法



近代横直屋根
柱目Flex

「柱目」を連続させる斬新なデザイン



SEKINO **セキノ興産**

株式会社 セキノ興産 秋田店
〒018-880-2323 FAX 018-880-2221
〒011-0916 秋田市旭川字下大谷地1-7

謹賀新年

令和5年元旦



IIAN ARCHITECT OFFICE

有限会社 汎建築設計事務所

代表取締役 阿部 公雄

〒010-0971 秋田市八橋三和町18番15号
TEL 018-823-4345(代)
FAX 018-823-4328
<https://www.mrt-arch.co.jp/>

謹賀新年

令和5年元旦

伊藤工業

本社/〒010-1221 秋田県秋田市雄和平沢字舟津田78番地1
☎018 (886) 213500

謹賀新年

令和5年元旦

全国製造業工事 環境工事

 株式会社 小島商事

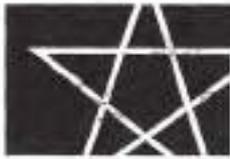
代表取締役 千羽 政直

秋田県十和田市西町1-12 ☎0131845,46240

謹賀新年

令和5年元旦

ゆたかな人間環境の創造



COSMOS
DESIGN

株式会社

コスモス設計

代表取締役 安田 勇二

秋田市川尻町大川反233-49

☎018-824-0048

謹賀新年

令和5年元旦

秋田県秋田市
サカグループ



株式会社 秋田サカグループ

代表取締役 藤田 正

〒010-0202 秋田県秋田市
1-1-1 ☎018-833-6607

謹賀新年

令和5年元旦

塗装工事

一般社団法人 日本塗装工業会

 株式会社 佐々英塗装

代表取締役 佐々英 隆

〒010-0202 秋田県秋田市
1-1-1 ☎018-833-6607
FAX 018-833-6607
URL http://www.sasaki-eigo.co.jp

謹賀新年

令和5年元旦

STATIONERY & PAPER

TOMIYA

株式会社 とみや

秋田営業所

〒010-0951 秋田市山王3-8-34 (山王ツインビル)
TEL 018-862-8002 FAX 018-865-2490
URL <http://www.kk-tomiya.co.jp>

謹賀新年

令和5年元旦



木のぬくもり つたえたい
株式会社 角 繁

代表取締役社長

渡 邊 悠

- 秋田本社
- 秋田事業センター
- 秋田プレカットセンター
- 仙台支店
- 山形支店
- 福島支店
- いわき営業所

謹賀新年

令和5年元旦

太陽と水と緑

未来へ向かって、安定した環境基盤を創造します。



株式会社 瀧神巧業

代表取締役 佐藤 慎



〒014-0372 秋田県仙北市角館町小館54番地
TEL: 0187 (54) 2311・0187 (54) 2711 FAX: 0187 (54) 2710

営業品目: 建築工事一式・土木工事一式・機械設備工事一式
水門、鉄管・斜樋取水設備・除塵機設備・鋼構造物一般

謹賀新年

令和5年元旦



建設資材の総合商社

山二建設資材株式会社

代表取締役社長 田口 清光
所 長 大塚 勝也

本 社 秋田市御所野湯本三丁目1番5号
TEL 018 (826) 0300
大曲営業所 大仙市下深井字板口端39
TEL 0187 (62) 2631
FAX 0187 (63) 5944

謹賀新年

令和5年元旦

MCA

MORE CREATIVE ASSOCIATES

株式会社 エムシーエー建築設計

代表取締役 小林 康彦

〒014-0068 秋田県大仙市大曲飯田町1-8
TEL 0187-62-5480 / FAX 0187-66-1955

謹賀新年

令和5年元旦



美しい人、まち、時代へー

有限会社 館設計

代表取締役 松塚 榮

〒014-0055

秋田県大仙市大曲あけぼの町14-25

TEL 0187-63-4933 FAX 0187-62-4717

謹賀新年

令和5年元旦

設計・監理 新建築士事務所



有限会社 都市設計

代表取締役 泉谷 明一

〒014-0064

秋田県大仙市小橋高瀬字中敷70番地

TEL: 0187-63-8333 FAX: 0187-63-6905

謹賀新年

令和5年元旦

命のやすらぎをあなたの住まいに



株式会社 高 英

代表取締役社長 長谷川 順一

〒019-1404

秋田県仙北郡美郷町六郷字小安門200

TEL 0187-84-4111 FAX 0187-84-4112

謹賀新年

令和5年元旦

横手建築士会

住 所 〒019-1108 横手市山内土測字茂竹8-5 照井郁人建築設計事務所内
TEL 0182-53-2650 FAX 0182-53-3450

相 談 役 長
会 副 会 長 事

監 事

大 照 輝 男 金 沢 純 治
照 黒 井 人 鈴 沢 純 治
高 黒 井 郁 稔 稔 治
堀 田 弘 幸 一 博 康 和
野 橋 新 幸 一 悦 行 一 孝
村 川 運 運 一 悦 行 一 孝
荒 川 宏 忠 宏 忠
高 野 寺 村 荒 野 寺 村 荒 野 寺 村
佐 野 村 荒 野 寺 村 荒 野 寺 村

川 本 一 義
高 橋 信 夫 利 男 忠 張
根 橋 一 信 克 留 清
高 橋 高 石 佐 木 葉 類 橋 木 橋
鈴 鈴 千 大 高 鈴 高 石 木 葉 類 橋 木 橋

実 川 本 一 義
悦 高 橋 信 夫 利 男 忠 張
廣 根 橋 高 石 佐 木 葉 類 橋 木 橋
誠 章 道 美 道 美 道 美

佐 木 嶋 誠 一 美
北 齋 藤 清 智 美 裕
高 齋 藤 智 智 敏 敏 子
鈴 橋 木 橋 木 橋 木 橋 木

田 原 友 明
佐 藤 藤 光 方
佐 藤 藤 光 方 義

謹賀新年

令和5年元旦



(有)久米一級建築設計事務所

代表取締役 久米 征子

〒013-0035 秋田県横手市平和町6番3号
TEL 0182 (32) 1347
FAX 0182 (32) 1319
E-mail kume2@sea.plala.or.jp

謹賀新年

令和5年元旦

株式会社 近 建築設計事務所

一級建築士事務所

代表取締役 佐藤 時彦

〒019-0503
秋田県横手市十字町西原一番町8番地
TEL (0182) 42-1388(代)
E-mail:konsekkel@h3.dlon.ne.jp

謹賀新年

令和5年元旦



伊藤建設工業株式会社

品質 | SO9001 認証企業
環境 | SO14001

本社 秋田県横手市大町5番19号
TEL 0182(32)3960(代)
秋田営業所 秋田市山王六丁目1番13号
山王プレビル3階
TEL 018 (863) 5530

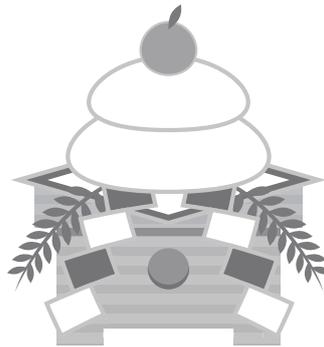
謹賀新年

令和5年元旦



YOKOTE 横手建設(株)

秋田県横手市前郷二番町7-13
Phone 0182(32)1697(代)



謹賀新年

令和5年元旦

自然と共に、“未来を創造”

品質 ISO9001 認証企業
環境 ISO14001



本社：秋田県横手市駅前町13番8号
TEL 0182(32)2680
FAX 0182(32)7500

謹賀新年

令和5年元旦

一級建築士事務所



有限会社 ミツイ設計

代表取締役 金沢 純治

〒013-0035 秋田県横手市平和町11-5
TEL 0182-33-1011
FAX 0182-38-8848
E-mail y-mitui@wonder.ocn.ne.jp

謹賀新年

令和5年元旦

有限会社
大嶋建築設計事務所

代表取締役 大嶋 輝男

横手市朝日が丘三丁目6-2
TEL 0182-33-1452
FAX 0182-33-2729
E-mail Oshima@ruby.ocn.ne.jp

謹賀新年

令和5年元旦



株式会社 半田工務店

本社：〒013-0043
横手市安田字堰端9番地1
TEL0182-33-0300/FAX0182-33-0303
秋田営業所：〒010-0963
秋田市八橋大沼町1番3号
TEL018-863-8635/FAX018-863-8497

謹賀新年

令和5年元旦



信頼・創造

株式会社 **大和組**

秋田県横手市平和町10番30号

電話 0182-32-3434

FAX 0182-32-3499

謹賀新年

令和5年元旦

ISO 9001・14001 認証取得



との語り合い、
それが私たちの会社です。

株式会社

小松木工

本社 | 秋田県横手市大雄字田村 66-5

☎0182-52-2149

大仙営業所 | 秋田県大仙市大曲黒瀬町 6-26

☎0187-73-7570



謹賀新年

令和5年元旦

湯沢雄勝建築士会

〒012-0037 湯沢市字沖鶴194-12 シグマ企画加納設計内

TEL 0183-73-6797 FAX 0183-73-6837

相談役	佐藤清次	山脇一樹	今康博	佐藤重志	由利茂広
会長	佐藤隆志	山脇秀夫	今康博	佐藤重志	由利茂広
副会長	山脇成吉	山脇秀夫	今康博	佐藤重志	由利茂広
理事	清水川一	山脇秀夫	今康博	佐藤重志	由利茂広
	鈴木伸一	山脇秀夫	今康博	佐藤重志	由利茂広
	加納大輔	山脇秀夫	今康博	佐藤重志	由利茂広
	藤原幸一	山脇秀夫	今康博	佐藤重志	由利茂広
監事	伊藤一	山脇秀夫	今康博	佐藤重志	由利茂広

謹んで新春のお慶びを申し上げます

令和5年元旦



一般財団法人

秋田県建築住宅センター

理事長 高橋 行文

常務理事兼事務局長 植田 一 理事兼事務局長次長 伊藤加久子 理事兼課長 佐藤 温

〒010-0001 秋田市中通二丁目3番8号(アトリオンビル5階)

TEL : 018(836)7851 FAX : 018(836)7852

ホームページ : <http://www.akjc.or.jp> E-mail: info@akjc.or.jp

謹 賀 新 年

令和5年元旦

秋 田 地 区 電 気 技 術 協 議 会

〒011-0811 秋田市飯島字砂田26-9 奥羽電気設備株式会社秋田営業所内
TEL: 018-845-9795 FAX: 018-846-8155 E-mail: osawaki@wawine.com

会 長	工 藤 一 則	奥羽電気設備株式会社秋田営業所
副 会 長	伊 藤 俊 也	伊 藤 電 気 株
会 計 幹 事	大 友 正 敏	羽 後 電 設 工 業 (株)
技 術 担 当 幹 事	仲 野 谷 崇	(有) 伸 和 電 工
企 画 担 当 幹 事	池 田 勝 彦	(有) 池 田 電 機 工 事
経 務 担 当 幹 事	小 林 茂 誠	小 林 電 設 (株)
監 事	藤 田 忠 彦	松 澤 電 気 工 事 株
監 事	時 田 祐 司	時 田 電 機 工 業 株

(正 会 員)

秋田電機建設株

姉帯電気工業株

(株)石郷岡電気工業

(株)大塚電機工業

(株)加島電気工事

(株)柏谷電工

工藤電気工事株

サン電気工業株

千代田電気工業株

仁賀保電機工業株

(株)布谷電機

株)ヌノタニ

本荘電気工業株

三菱マテリアル電子化成株

日本海建設電気事業所

(株)ライトン

建築士試験 一発合格を目指すなら
その道のプロがサポートします。

総合資格学院は
秋田県/全国合格実績

No.1



令和3年度 1級建築士 学科+設計製図試験

秋田県のストレート合格者の
3人に2人は当学院の当年度受講生!

ストレート
合格者
占有率
66.7%

秋田県ストレート合格者3名中/当学院当年度受講生2名

※合格者数No.1を目指す場合は、正答率90%以上(1級)を目指す必要がある場合があります。 ※全国合格者数・累計合格者数(1級)は、建築士試験受験センターの発表に基づきます。 ※秋田県合格者数(1級)は、秋田県建築士会が発表する合格者数に基づきます。 ※秋田県建築士会が発表する合格者数(1級)は、秋田県建築士会が発表する合格者数に基づきます。 ※秋田県建築士会が発表する合格者数(1級)は、秋田県建築士会が発表する合格者数に基づきます。

令和3年度 1級建築士 設計製図試験

全国合格者の
2人に1人以上は当学院の当年度受講生!

合格者
占有率
52.7%

全国合格者3,765名中/当学院当年度受講生1,986名

開講講座一覧 体験入学・受講相談受付中!!
秋田校までお気軽にお問い合わせください

1級建築士	2級建築士	1級・2級 建築施工管理技士	1級・2級 土木施工管理技士	1級・2級 管工事施工管理技士
構造設計1級建築士 設備設計1級建築士	建築設備士	宅地建物取引士	賃貸不動産 経営管理士	インテリア コーディネーター



法人サポートサービス実施中!

長年培ってきた資格指導のノウハウをもとに、企業ニーズに最も適した研修プログラム・講習メニューをご用意!

合格ガイダンス

社内講習会&模擬試験

願書取寄せサービス

新卒採用支援

有資格者育成プラン作成

詳細は秋田校まで
お気軽にお問い合わせください!

秋田県建築士会会員様 受講料特別割引あり! お問い合わせは秋田校まで!



総合資格学院



秋田校

秋田市申通1-4-32 秋田センタービル1F

TEL018-874-9081

www.shikaku.co.jp 総合資格 検索 Twitter ⇒「@shikaku_sogo」 LINE ⇒「総合資格学院」 Facebook ⇒「総合資格 1」で検索!

新入会員からのメッセージ



鹿角建築士会
杉本 利之

この度入会させていただきました杉本利之と申します。
主に施工管理を担当しております。設計業務に携わることは少ないのですが、建築士会の活動を通じて様々な知識が深められれば良いと考えております。
何卒よろしく願いいたします。



秋田中央建築士会
児玉 慶

この度、入会させていただきました、児玉慶と申します。
建築士会の活動を通じて多くのことを学ばせていただければと思い、入会しました。建築に関する様々な知識を深めていきたいです。
秋田市役所で営繕や審査を担当してきました。どうぞよろしくお願いいたします。



仙北建築士会
稲葉 知秀

この度、入会させて頂くことになりました、仙北支部の稲葉知秀と申します。
大仙市藤木の株式会社さとうに勤務しています。
27年間、設計業務と現場管理業務を行って来ましたが、毎回反省点がみつきり建築の難しさや奥深さをいつも感じます。入会させて頂くことにより、皆さんとの情報共有や意見交換により学べるのが沢山あると思いますので楽しみにしています。学んだ知識で地域やエンドユーザーさんに更なる貢献が出来ればと思っています。宜しく願い致します。

◆令和4年度(公社)日本建築士会連合会 第2回東北ブロック会会長会議◆

日時：令和4年12月12日（月）

場所：秋田キャッスルホテル

建築士会第2回会長会議が秋田市で開催されました。東北各県会長様、及び北海道建築士会会長様が、各天候にも関わらず全員ご出席され、(公社)日本建築士会連合会の近角眞一会長様、成藤専務理事様を来賓としてお迎えいたしました。

審議は、東北ブロック会事業についての他、「第64回建築士会全国大会あきた大会」の実施報告等が行われ、3年ぶりの現地開催の全国大会が成功裏に終了したことに対し、皆様より労いのお言葉を多数頂戴いたしました。次年度開催のしずおか大会、また令和10年の岩手大会への協力について、秋田士会の出来る限りの支援を行うことをお約束いたしました。

◆建築士定期講習◆

令和4年度の(一社)秋田県建築士会が開催した建築士定期講習の概要(中間)を報告いたします。

CPD：6単位

月 日	会 場	定 員	受講者
7月27日(水)	秋田市文化会館	80	46
10月27日(木)	北秋田市交流センター	60	36
11月30日(水)	大仙市大曲交流センター	80	86
3月7日(火)	秋田テルサ	80	未開催

今年度は受講者が減少しております。WEB講習の影響もあり、北秋田市開催は40名を割り込み当会初のDVD講習となりました。また長年、会場として利用していた秋田市文化会館が9月末で閉館となり、3月の秋田市開催は秋田テルサで実施されます。



秋田市文化会館



北秋田市交流センター



大仙市大曲交流センター

◆建築士試験◆

令和4年度の建築士試験の実受験数と合格人数 (名)

項目		一級	二級	木造
・学科の試験				
実受験者	(a)	114	116	1
合格者	(b)	15	28	0
合格率	(b) ÷ (a)	13.2%	24.1%	0%
(全国合格率)		21.0%	42.8%	62.6%
・設計製図の試験				
実受験者	(c)	28	50	0
内、製図から	(d)	13	22	0
最終合格者	(e)	6	29	0
合格率	(e) ÷ (c)	21.4%	58.0%	- %
(全国合格率)		33.0%	52.5%	59.0%
最終合格率	(e) ÷ {(a) + (d)}	4.7%	21.0%	0%
(全国最終合格率)		9.9%	25.0%	35.5%

令和4年度の二級建築士合格者は、29名で、昨年の41名を大幅に下回りました。特に学科の試験合格者は全国平均より大幅に減少いたしました。また、木造建築士は合格者無し、一級建築士合格者は、6名（昨年6名）の方が合格されました。

建築士法改正により、受験資格から実務を除いたことから受験者数が増えるとの情報がありましたが、二級建築士は19%減、一級建築士は3%減となりました。

◆秋田県耐震診断技術者の登録(更新)について◆

秋田県では、木造住宅の耐震化の促進に向けて、住宅を所有する方が安心して耐震診断を受けられるように、耐震診断を実施する上で必要な知識・技能を有する建築士を「耐震診断技術者」として登録し公開しております。

登録者の多くは、令和5年3月31日で登録期限を向かえます。継続して登録を希望する場合は更新手続きが必要となりますので、忘れずに更新してください。

◇窓口 秋田県建設部 建築住宅課 建築指導班 電話：018-860-2565

URL：<https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/22034>

◆建築士会CPD制度について◆

経営事項審査の審査基準の改定により、継続教育（CPD）が評価対象として加点されることとなりました。その組織に所属するCPD参加者が一定の単位を修得した場合（12単位/年）に加算できます。

参加者の皆様には、次年度の更新について地域会を通じてご案内しております。

この機会に建築士CPD制度に参加しませんか。

1. 参加登録方法

建築士会 CPD 制度に参加を希望する建築士等は、各地域建築士会で所定の手続きと所定の費用を納めて参加登録をします。

2. 参加申込書、及び CPD カードの作成申込書

建築士会で定める「建築士会 CPD 制度参加登録申込書」(様式第 1 号)に必要事項を記入の上、建築士会の定める費用を添えて申し込みます。

費用一覧

(税込)

費用	内容	会員	非会員
①初期登録費	サーバーに個人履歴を蓄積可能とする設定費。 【参加初年度のみ】	0 円	1,100 円
②データ登録・管理費	研修プログラムの出席データの登録およびそれら履歴を適正に管理するための費用。【毎年、必要】	550 円	2,750 円
③ CPD カード発行費	研修プログラムにおける出席データ登録のために必要な CPD カードの 1 枚あたりの作成費用。 【原則 1 人 1 枚発行】	770 円	1,650 円
④ CPD 実績証明書発行費	個人履歴に基づき、証明書の交付を受けるための 1 通あたりの費用。	550 円	1,100 円
⑤事後申請データ登録費	CPD プログラムの認定は、事前認定が原則ですが、特例として建築士会が認める場合に、個人の申告により CPD 単位を申請し、単位認定を受けるための費用。【1 申請 1 プログラム当たりの費用】。	550 円	1,650 円
⑥建築 CPD 情報提供制度利用費	建築 CPD 情報提供制度（事務局：(公財) 建築技術教育普及センター）の活用を希望する場合にかかる費用。【毎年 1 回必要であるが、秋田は初回のみ】	550 円	550 円

◆参考：『建築士会 CPD 制度参加者ガイドライン』日本建築士会連合会

(一社) 秋田県建築士会の HP よりダウンロードしてください。

◆参加登録後に、個人の CPD 番号とパスワードが発行され、CPD 情報システムが活用することができます。

◆既存住宅状況調査技術者講習のご案内◆

既存住宅状況調査技術者登録者は、3 年毎に更新講習の受講が必要です。令和元年度に受講した方は、令和 5 年 3 月 31 日で期限が終了します。今年度については、対面講習の開催はありませんので、オンライン学習にて受講してください。新規に受講される方も同様です。

【申込先】(公社) 日本建築士会連合会ホームページより申込みとなります。

忘れてませんか！ 建築士定期講習のお知らせ

平成20年11月28日施行の改正建築士法により、建築士事務所に所属するすべての建築士は、登録講習機関が行う定期講習を3年以内ごとに受講しなければなりません。

建築士事務所に所属する方で、令和元年度に建築士定期講習を修了した方及び令和元年度以前に建築士試験に合格し建築士として登録した方でまだ受講していない方は、令和4年度中に当該建築士定期講習を受講しなければなりません。

今回は令和4年度の最後の講習になりますので是非受講をお勧めします。

第4回定期講習（1E-04）

と き：令和5年3月7日(火)

ところ：秋田市 秋田テルサ

募集期間：令和5年2月20日 締切

登録講習機関 公益財団法人 建築技術教育普及センター

受付機関 （一社）秋田県建築士会 事務局

受講申込書を希望する方は、事務局までお問い合わせ下さい。

電話 018-827-3718 FAX 018-827-3873

編集後記

今回の建築士会ニュースにて、あきた大会の特集が出来ましたこと、皆様に深く感謝申し上げます。

誌面の関係で催しの詳細を掲載することは出来ませんでした。成功裏に終わった大会の雰囲気を感じていただけたのではないのでしょうか。

令和2年度が明けて早々に、連合会と広島士会がコロナ感染症の状況を鑑みて全国大会延期の協議に入ったとの不確実な情報が入り、悲報ではありましたが実は「目の前が明るくなった!!」と感じたのを鮮明に覚えております。何故なら令和元年12月に大会主会場として利用する県立体育館・秋田市文化会館・県生涯学習センターを実行委員会有志で見学し、改めて「ユニバーサルデザインではない・・・m () m」と実感していたからです。6月に連合会より延期の打診があり、秋田士会が受諾したことから新たな計画へ向かっていくこととなりました。

それからは、事務所の窓から見えるミスハス工事現場の進捗状況を監督？する毎日となりました。若干の工期延長があり、再三にわたり県担当から状況を聞き、大会直前に完成という最終情報を聞いたときの安堵感は半端なく、ひとつの節目であったと振り返っております。

コロナの猛威は止まらず、広島大会が現地開催を断念し東京会場となったのは広島大会の4ヶ月前でした。次年度開催県としてのPRが十分に出来ずに、先への不安が募るばかりでした。

「いざない（5月号）」掲載の募集原稿の締め切りは令和4年2月末。掲載した基本計画は、地域会を始め多くの会員の総力を取り纏めることでPR不足であった「あきた大会」への秋田士会の熱意が通じたものと考えております。

参加者募集締め切りは7月末。一応2400人近い申し込みがあり最悪の事態は避けられてはいたものの、日々報道されるコロナ感染状況に伴うキャンセル爆増への恐怖が募り事務局として最も苦しい時期でした。大会1ヶ月前となり、参加登録数が2500名を超え全ての企画が計画通りに実施できることが確定しました。

迎えた大会前日（13日）の朝、オレンジジャンパーを纏った大群がミルハスホールに結集し大会準備始動の氣勢上げ、各持ち場に散らばっていく姿を見て『三日間の大会は成功する』との確信が得られた瞬間でもありました。

好天に恵まれた奇跡、コロナ感染第7波と第8波の谷間であったことの軌跡、3年振りの現地開催で多数の参加により全ての行事が実施された奇跡、1年延期となりミルハスで開催出来たことの奇跡、数々の奇跡が重なり「あきた大会」は終了したのでした。

エキスカッションのバスを送り出し、最後の片付けが終わった後に事務所の机に座り「もっきりコーナー」で残った酒を一杯いただきました。うまかった。

（第64回建築士会全国大会あきた大会実行委員会 事務局）



第 64 回建築士会全国大会あきた大会式典 ダリア

あきた建築士会ニュースNo.159 (2023年1月号)

発行／一般社団法人秋田県建築士会 住所／〒010-0001 秋田市中通二丁目3-8 秋田アトリオンビル5階(一財)秋田県建築住宅センター内 電話／018-827-3718
編集／一般社団法人秋田県建築士会事務局 発行日／令和5年1月20日 印刷／秋田協同印刷株式会社